### 国立研究開発法人国立国際医療研究センターの 令和3事業年度業務実績評価書及び令和4事業年度業務実績評価書の訂正について

国立研究開発法人国立国際医療研究センターの 「令和3事業年度業務実績評価書」 及び「令和4事業年度業務実績評価書」について、同法人の報告により記載の誤り が判明したため、別添資料の赤字のとおり訂正を行いました。

なお、訂正を行った項目における法人の自己評価及び厚生労働大臣評定の変更は ありません。

本件につきましては、別途、国立研究開発法人国立国際医療研究センターのホームページの以下リンク先にも掲載されています。

- ・「令和3年度の業務実績の評価結果(2024年9月26日訂正)」 https://www.ncgm.go.jp/disclosure/020/020/r3\_hyoukakekka.pdf
- ・「令和4年度の業務実績の評価結果(2024年9月26日訂正)」 https://www.ncgm.go.jp/disclosure/020/020/r4hyoukakekka.pdf

# 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 令和3事業年度業務実績評価書

131-1-			20, 10.00								
1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報										
1 - 2	研究開発に関する事項(実用化を目指した研究・開発の推進及び基	究開発に関する事項(実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備)									
関連する政策・施策	基本目標:安心・信頼してかかれる医療の確保と国民の健康づくりの	当該事業実施に係る根拠(個	高度専門医療に関する研究等を行う国立研究開発法人に関する法律								
	推進	別法条文など)	第16条								
	施策目標:政策医療の向上・均てん化										
当該項目の重要度、難 易度	【重要度:高】 実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備は、国民が健康な生活及び長寿を享受することのできる社会を形成するために極めて重要であり、研究と臨床を一体的に推進できるNCの特長を活かすことにより、研究成果の実用化に大きく貢献することが求め	関連する研究開発評価、政策 評価・行政事業レビュー									
	られているため。										

主な参考指標情報								②主要なインプット	、情報(財務情報	吸及び人員	に関する情報	報)		
	基準値等	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度		R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
First in human (ヒトに 初めて投与する) 試験実 施件数:1件以上	中長期目標期間 において、 1件以上 (令和3年度計画では、 研究対象の検討を開始)	0 件	件	件	件	件	件	予算額(千円)	6,699,034					
医師主導治験実施件数	中長期目標期間 において、 14件以上 (令和3年度計画では、 年間3件以上)	<u>9</u> 11-件	件	件	件	件	件	決算額(千円)	8,193,117					
センターの研究開発に基 づくものを含む先進医療 承認件数:26 件以上	1 24//11 (10///11/4	4 件	件	件	件	件	件	経常費用(千円)	7,806,387					
臨床研究(倫理委員会に て承認された研究をい う。)実施件数	中長期目標期間 において、 2,700 件以上 (令和3年度計画では、 年間450件以上)	<u>454<del>623</del></u> 件	件	件	件	件	件	経常利益 (千円)	871,403					
治験(製造販売後臨床試 験も含む)実施件数	中長期目標期間 において、 180件以上 (合和3年度計画では、 年間20件以上)	<u>36<del>39</del></u> 件	件	件	件	件	件	行政コスト (千円) 行政サービス実施 コスト (千円)	7,899,056					
学会等が作成する診療ガ イドラインへの採用件数	中長期目標期間	42 件	件	件	件	件	件	従事人員数 R3年4月1日時点 (非常勤職員含む)	286					

	国際臨床研究実施件数	中長期目標期間	<u>17</u> 20-件	件	件	件	件		件			
		において、										
		10 件以上	各) 4件	各) 件	各) 件	各) 件	各) 件	各)	件			
		(令和3年度計画では、	W) 4件 V	W) 件	W) 件	W) 件	W) 件	W)	件			
		年間 5 件以上)										
		・うち2件以上を										
		各国薬事承認または、										
		WHO 制度(PQ、EUL な										
		ど) の認証目的案件と										
		する										
	外部機関等との共同研究	20 件以上/年	<u>115</u> 111-件	件	件	件	件		件			
'	数											

2 市長期日搏 市	長期計画、年度計画、	ナカ評価軸 業務生	(結集) 年度評価(	に係る自己評価及び主	孩士氏による証価		
中長期目標	中長期計画	年度計画	<u>頼寺、中及計画の</u> 主な評価軸(評		務実績等・自己評価	主務大臣	こによる評価
			価の視点)、指	主な業務実績等	自己評価	<del>li</del>	
			標等			311,d-	
						評定   <評定に至った理由>	A
		另口《氏》	こ記載			(1) 主な目標の内容	
		75 7 7 124 1				○目標の重要度、難易度	
						【重要度:高】	
							の推進及び基盤整備は、国民が健康な きる社会を形成するために極めて重要
							進できるNCの特長を活かすことにより
						研究成果の実用化に大きく貢献	
						( I - FT // HADES)	
						(定量的指標) 本欄「(2) 目標と実績のり	と終した記載
						平(M) 「(2) 口际C 天順の月	2年入」(〜日山年入
						(定量的指標以外)	
						① 実用化を目指した研究・開	発の推進及び基盤整備
						具体的には、 ・臨床研究の中核的役割の	/実現
						・バイオバンク・データセ	
							/ョン・ネットワーク(CIN)の拡充
						強化 ・国際臨床研究・治療ネッ	トワークの抗布
						・産官学等との連携強化	1 2 2 3 3 3 3 3 5 5
						・生活習慣病の予防と治療	
						・知的財産の管理強化及び ・倫理性・透明性の確保	活用推進
						- 開程1年 - 25971年974年1末	
						(2) 目標と実績の比較	
						(定量的指標)	ムア机トイス) 計験字転 <i>供料</i>
						・First in human (ヒトに初)・ 中長期目標 累計	めて投与する) 試験実施件数 1件
							0件
						・医師主導治験	

	中長期目標 累計 14 件
	年度計画 年 3件
	実績 9 <del>2</del> 件(対年度計画 300.0 <del>66.7</del> %)
ı	・センターの研究開発に基づくものを含む先進医療承認件数
	中長期目標 累計 26 件
	年度計画 年 5件
	実績   4件(対年度計画 80.0%)
	・臨床研究(倫理委員会にて承認された研究をいう)実施件数
	中長期目標 累計 2700 件
	年度計画 年 450 件
1	
l	実績 <u>454623</u> 件(対年度計画 <u>100.9138.4</u> %)
	・治験(製造販売後臨床試験も含む)実施件数
	中長期目標 累計 180 件
	年度計画 年 20 件
	実績 <u>3639</u> 件(対年度計画 <u>180195</u> . 0%)
	・学会等が作成する診療ガイドラインへの採用件数
	中長期目標 累計 120 件
	年度計画 年 20 件
	実績   42 件 (対年度計画 210.0%)
	・国際臨床研修実施件数
	中長期目標 累計 10 件
	年度計画 年 5件
1	
l	実績 <u>1720</u> 件(対年度計画 <u>340400</u> . 0%)
	・外部機関等との共同研究数
	中長期目標 累計 120 件
	年度計画 年 20 件
	実績 115 <del>111</del> 件(対年度計画 575 <del>565</del> .0%)
	(3) その他考慮すべき要素 (定量的指標以外の成果) ・ 新興・再興感染症の研究・開発を促進するためのナショナル・リボジトリの情繁 新興・再興感染症の診療情報及び生体試料の収集と、ヒト・病原体ゲノム解析、病原体分離を実施し、研究・開発を行う第主きョウル・リボジトリ (REBIND) を開始したことは、今後の顕著な成果の創出が期待される。 ・ 国内外の薬事承認や WHO の認証制度向けを含む研究者主導臨床試験を企画・実施薬事承認や WHO の各種認証制度向けを含む臨床試験について、令和3年度の実績は実施中が6件、実施準備中が4件、コンサルティングが7件、プロトコル作成が3件、その他2件であった。また、国際研究開発活動の多様な経験を活かし、2021年12月に設立した国際 ARO アライアンスである ARISE の基盤強化を進めたことは評価できる。 ・ 臨床研究中核病院としての役割実現と臨床試験・治験等の推進及び支援 COVID-19 対象医師主導治験として計3件の国内医師主導治験に
	参加した他、国際共同医師主導治験における国内主施設として、 レムデシビル併用下で各種候補薬剤の有用性を検証する計 4 件の
	レムノシビル所用する存種疾制の利用性を検証する計4件の

	医師主導治験を実施し、日本人被験者の組み入れ等積極的に行っ た。
	(4) 評定 上記含むその他の成果は、「特に顕著」「特別な」とまでは言えないもの の、中長期目標に照らし顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待等 が認められることから「A」評定とした。
	<今後の課題>
	< その他の事項 > 特になし

4. その他参考情報

<b>弌 2 ── 1 ── 4 ──</b> 中長期目標	中長期計画	令和3年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務等	実績等・自己評価
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
<u>.                                      </u>		•			
のできる社会を形成する				からビルダグリプチンと、海外のガイドラ	
ために極めて重要であり				インで第一選択薬とされているメトホルミ	(予算額・決算額の評価)
研究と臨床を一体的に				ンを対象に、ドラッグナイーブの2型糖尿	予算額 6,699 百万円に対し、決算額 8,193 百
推できるNCの特長を活				病患者に対して血糖コントロールの目標値	なり、1,494 百万円の増となった。これは主に
ゝすことにより、研究成				である HbA1c<7%をどの薬剤が最も長期にわ	入の増によるものである。
<b>具の実用化に大きく貢献</b>				たって維持できるのかを3年間にわたる観	
ることが求められてい				察から検討する大規模臨床試験を計画する	(定量的指標)
ため。				に至った。本研究の成果から、我が国のガ	■ First in human (ヒトに初めて投与する)
				イドラインにおいて2型糖尿病の第一選択	試験実施件数:1件以上(中長期計画)
				薬として推奨すべき薬剤についての強力な	年度計画 研究対象の検討を開始する
				エビデンスが得られるものと考えられる。	年度実績 研究対象の検討を開始した
				・極早期に発見される肛門癌の治療に関する	
				単施設、非対照試験	■ 医師主導治験実施件数:14件以上(中長期
				jRCT初回公表日:2022/3/7	)
				肛門管癌は、主要なHPV関連がんの一つで	年度計画 3件以上実施
				ある。その早期発見の取り組みには、前が	年度実績 <u>9</u> 11件(対年度計画 <u>300.0</u> 366.6%)
				ん病変の正確な病期診断が不可欠であり、	
				海外ではこの領域の研究が進みつつある。	■ センターの研究開発に基づくものを含む5
				また日本では、肛門管癌のスクリーニング	療承認件数:26件以上(中長期計画)
				検査としての肛門擦過細胞診(Pap smear)	年度計画 5件以上実施
				に関する認知度が著しく低いが、この細胞	年度実績 4件(対年度計画80.0%)
				異型の程度に応じて、拡大肛門鏡で病理診	
				断を行うことが海外では推奨されている。	■ 臨床研究(倫理委員会にて承認された研究
				さらに近年、海外の大規模研究(ANCHOR STU	う。) 実施件数:2,700件以上(中長期計画
				DY)の結果から肛門管癌スクリーニングによ	年度計画 450件以上実施
				り同定された前がん病変に対する焼却療法	年度実績 454件(対年度計画100.9%)
				の有効性が確立されてきている。しかし、	
				日本では肛門管癌に対する焼却療法が可能	■ 治験(製造販売後臨床試験を含む。) 実施
				な施設はほとんどなく、その有効性や安全	: 180件以上(中長期計画)
				性が検証されていない。本研究では、Surgi	年度計画 20件以上実施(うち新規10件以上)
				tron Dual EMCを使用した焼却療法の有効性	年度実績 <u>3639</u> 件
				と安全性を検証することを目的として、肛	
				門管癌の前がん病変を対象として焼却療法	■ 学会等が作成する診療ガイドラインへの技
				を行う。	数:120件以上(中長期計画)
				MSMを対象としたSH外来、HIVを対象とし	年度実績 42件
				たACC外来通院中の患者を対象として、肛門	
				管癌のスクリーニングを行う。肛門管癌ス	■ 国際臨床研究実施件数:10件以上
				クリーニング検査は、まず肛門擦過細胞診	うち各国薬事承認を得る臨床試験実施件数:
				とHPV genotype検査を行う。次に細胞診で	
				異常細胞を認めたものに対して拡大肛門鏡	うちWHO制度の認証を得る臨床試験実施件数:
				を行う。この拡大肛門鏡の観察下の組織生	1件以上
				検(6ヶ所)でAIN grade2または3の病変を認	年度実績 <u>17</u> 20-件
				めたものに対して生検部位を中心に焼却療	うち各国薬事承認を得る臨床試験実施件数:
				法を行う。	4件以上
				肛門管癌の前がん病変に対する治療法は	うちWHO制度の認証を得る臨床試験実施件数:
			1	現時点では癌病変への進展のリスクを伴う	4件以上

中長期目標	中長期計画	令和3年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等・自	己評価
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
	○ 本学事権の砂ル	⑤ 産官学等との連携強化		⑤ 産官学等との連携強化	
	⑤ 産学連携の強化	②   座目子寺との連携無化		② 座目子寺との連携独化	
	企業、日本医療研究開発	D W STEWNSHERS I O IL DITTO			
	機構、大学等の研究機関、	ア 外部機関等との共同研究		ア 外部研究機関と共同研究契約を締結の	
	大規模治験実施医療機関等	を20件以上実施する。		上、今年度に新たに推進した共同研究数は1	
	との連携を図り、医療に結			<u>15</u> 111件であった。	
	びつく共同研究・委託研究				
	や外部資金獲得等を支援・	イ 臨床分野においても、産		1	
	推進する。これまでの基盤	官学連携により技術開発や		・ 医療機器に関する医療現場のニーズを汲	
	研究で得られた創薬シーズ			み上げるために、産業界も参加した東京都医	
	の臨床応用の可能性を明ら	現場のニーズを外部機関へ		工連携HUB機構との臨床ニーズマッチングク	
	かにするとともに、積極的	情報発信し、必要に応じ		ラスター研究会を1回実施し、医療現場・も	
	に情報発信を行い、産官学			のづくり企業・製販企業が三位一体となって	
	の連携、橋渡し研究へと展	援・推進する。		医療機器開発を推進している。2021年度に登	
	開するための支援やマネー			録されたニーズは11件、7の診療科、部署か	
	ジメントを行う。中小の医			らの発表があった。2021年度は東京都医工連	
	療機器ものづくり企業や省			携HUB機構サイトを通して、NCGMには、18件	
	庁等と連携し、現場のニー			の面談希望、12件のコメントが寄せられてい	
	ズに合致した医療機器の開			る。	
	発及び国際展開について中			・ 2021年度に共同研究に進んだ案件は3件、	
	心的役割を果たす。			新たに公的助成金を獲得した件数は4件、院	
	これらにより、外部機関			内倫理委員会承認に至った案件が1件あり、	
	等との共同研究数を毎年20			臨床での評価へ進んでいる。	
	件以上とする。			・ 東京都との連携により医療機器開発海外	
				展開人材育成プログラムをオンラインにて1	
				期実施し4名が受講した。現地ニーズを踏ま	
				えた海外向け医療機器開発支援については、	
				2021年度はモンゴル、ベトナムについてオン	
				ラインを通して支援を継続した。2022年度の	
				視察対象は未定であるが、現地視察ができな	
				い場合もオンライン会議等を通し支援継続で	
				きるよう準備を進めている。	
				・ 行政機関(厚生労働省、AMED、経済産業	
				省、特許庁、東京都など)やPMDA、国内企業	
				関係者、そして当センター医師らが出席し、	
				海外医療機器の最新動向勉強会(Medical In	
				novation by NCGM and Commons:MINCの会)	
				を4回行った。2021年度は全てオンラインに	
				て開催された。	
				・ NCGMと包括連携協定を締結している株式	
				会社日立製作所及び富士フイルムヘルスケア	
				株式会社との共同研究においては、医療の高	
				度化、効率化、安全性の向上、並びに国際化	
				に資する医療技術の技術開発を達成するため	
				に新たに外科手術共同研究契約を締結し、研	
				究を進めている。各課題について共同研究の	
		1	1	可能性を検討している。更に、技術情報交換	

	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •									
1	1. 当事務及び事業に関する基本情報									
1	L <b>-</b> 3	医療の提供に関する事項								
関	<b>]連する政策・施策</b>	基本目標:安心・信頼してかかれる医療の確保と国民の健康づくりの 推進	当該事業実施に係る根拠(個 別法条文など)	高度専門医療に関する研究等を行う国立研究開発法人に関する法律 第16条						
		施策目標:政策医療の向上・均てん化								
	4該項目の重要度、難 品度	【重要度:高】 感染症その他の疾患に対する中核的な医療機関であり、研究開発成果の活用を前提と して、医療の高度化・複雑化に対応した医療を実施することは、我が国の医療レベルの 向上に繋がるため。	関連する研究開発評価、政策 評価・行政事業レビュー							

#### 2. 主要な経年データ

	i な参考指標情報									②主要なインプット	情報(財務情	青報及び人員	員に関する情	報)		
		基準値等	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度			R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
	アンター病院の救急搬送	90%以上	79.9%	%	%	%	%	%		予算額 (千円)	34,297,259					
	見者応需率									決算額 (千円)	35,352,573					
B さ ク	マンター病院の高度総合 医療を要する多臓器不全 と伴った敗血症性ショックにおける28日生存割	80%以上	79.2%	%	%	%	%	%		経常費用(千円)	34,878,094					
ラ 性	國府台病院の精神科救急 、院料病棟及び精神科急 生期治療病棟における重 定身体合併症率	15%以上	18.4%	%	%	%	%	%		経常利益(千円)	3,704,664					
	アカンドオピニオン実施	160 件以上/年	<u>229<del>226</del></u> 件	件	件	件	件	件	Ī	行政コスト(千	- 7 - 7 - 7 - 7					
1	‡数								<u> </u>	円)	34,990,839					
										行政サービス実施						
									-	コスト (千円)	_					
										従事人員数 R3年4月1日時点						
										(非常勤職員含む)	2,161					
12	医療安全管理委員会やリ	1回以上/月	月1回		□			□		() 1133/1432 [37	2,101					
7	スクマネージャー会議の		内訳	内訳	内訳	内訳	内訳	内訳								
月	<b>昇催回数</b>		センター病院	センター病院	センター病院	センター病院	センター病院	センター病院								
			月1回	耳	且	且	臣	臣								
			国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院								
17	医療安全監査委員会の開	2回/年	月1回	□	田	田	回	垣								
	を療女主監査安貝云の開 <b>全</b> 回数	2四/平	年2回	口	囯	旦	□	回								
е	-ラーニングによる医療	2回以上/年	年4回	口	□	口	П	日								
-	安全研修会・院内感染対		内訳	内訳	内訳	内訳	内訳	内訳								
ラ	<b>管研修会の開催回数</b>		センター病院	センター病院	センター病院	センター病院	センター病院	センター病院								
			年2回	Ħ	日	Ħ	日	田								
			国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院								
			年2回	П	日	П	口	口				1	1			

入院患者数	令和3年度計画	センター病院							
	センター病院	548.4 人							
	630.0 人	国府台病院							
	国府台病院	280.6 人							
	306.5 人								
外来患者数	令和3年度計画								
717106-638		センター病院							
	1,745.1人								
	国府台病院	<del>1,521.1</del> <del>1,505.8</del> 人							
		国府台病院							
	000.9人								
カラ人 由 北 ツ . / 1 かわ	A control or	771.5 人	-						
初診患者数 (入院)	令和3年度計画								
	センター病院	センター病院							
	19.9 人								
	国府台病院	国府台病院							
	13.3 人	12.6 人							
初診患者数 (外来)	令和3年度計画								
	センター病院	センター病院							
	157.0 人								
	国府台病院	国府台病院							
	35.7 人	37.7 人							
病床利用率	令和3年度計画								
	センター病院	センター病院							
	89. 9%								
	国府台病院	国府台病院							
	91.4%								
平均在院日数	令和3年度計画								
1 41-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12-12	センター病院	センター病院							
	13.1 日								
	国府台病院	国府台病院							
	15.6 目								
手術件数	令和3年度計画	11.0-11.7- H							
于W 计数	センター病院	センター病院							
	6,800 件								
	国府台病院	国府台病院							
rm A I.		<u>2,063</u> <del>2,977</del> 件							
紹介率	令和3年度計画								
	センター病院	センター病院							
	100%								
	国府台病院	国府台病院							
	75%	<u>67.5</u> 82.1%							
逆紹介率	令和3年度計画								
	センター病院	センター病院							
	70%	<u>81.4</u> 69.7%							
	国府台病院	国府台病院							
	85%								

		・セカンドオピニオン実施件数
		中長期計画 年 160 件
		年度計画 年 160 件
		実績 <u>229226</u> 件(対年度計画 <u>143.1141.3</u> %)
		その他、「2. 主要な経年データ」内、「主な参考指標情報」のとおり
		(3) その他考慮すべき要素 (定量的指標以外の成果) ・ COVID-19 への対応 SARS-CoV-2 の院内感染を防ぐため、病院の入院予定患者、緊急 入院患者、術前患者等を対象に核酸増幅検査をスクリーニングで 行った。また多項目測定遺伝子診断機器を多数導入し、COVID-19 をはじめとした新興・再興感染症等を早期・鋭敏に探知できるシ ステムを構築した。また、COVID-19 の診療にあたり、関係各科で 共同・連携の中で行っており、新規陽性者数及び入院患者数に応 じて弾力的に体制を変更して運用するなど、機動的かつ適切な医 療提供体制の構築を行った。
		・ 救急医療の提供 コロナ禍においても都内トップレベルの救急搬送件数、救急搬送依頼応需率を維持し、質・量ともに国内トップクラスの救急診療を行ったことは評価できる。また、国府台地域において精神科救急患者は重症身体合併症を伴うことが少なくないが、精神・身体を同時に診療できる施設が少ないことから、地域の医療提供に貢献している。
		・総合病院としての取り組み HIV/エイズ患者への診療や肝炎医療等への取り組みといった感染症・免疫疾患に係る高度専門医療の提供のほか、膵島移植やロボット支援下での手術といった先駆的な医療を展開し、安全で質の高い低侵襲手術を提供するなど、継続して高度な医療の提供を行った。
		(4) 評定 上記含むその他の成果は、所期の目標を上回る成果が認められることか ら「A」評定とした。
		<今後の課題>
		10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1
		<その他の事項>
		特になし
	- '	
4. その他参考情報		

中長期目標	中長期計画	令 和 3 年 度 計 画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実	3績等・自己評価
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
とに伴う種々の合併症に T	 コントロールが不安定な 1	コントロールが不安定な1	療の実施	センター病院では、2015年から先進1型糖	<u>229<sup>226</sup></u> 件(センター病院 <u>226<sup>223</sup></u> 件、国府台病防
対応する医療の提供に関	型糖尿病に対する脳死・心	型糖尿病に対する脳死・心		尿病外来を開始し、持続血糖測定器搭載型イ	3件)となり目標を達成した。
と   指針を示すこと。新た	停止ドナーからの同種膵島	停止ドナーからの同種膵島		ンスリンポンプ (SAP) を導入した。2017年	117 2 3.7 11/1/2 2.2/3(0.12)
、検査法や予防法を確立	移植を実施する。	移植を実施する。令和3年		にはSAPに予測低血糖自動注入停止機能が搭	医療事故防止、感染管理及び医療機器等の等
、新規感染者減少を目	12 12 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	度は1~3例の実施を目指		載され、低血糖頻度の著明な減少を認めた。	管理に努め、医療安全管理体制の強化に向けた
首すこと。		す。		2020年からはSAPの外来導入体制を設けてい	り組みとして、以下の事項は顕著な成果であ
外国人居住者や訪日外		, ,		る。2022年1月には血糖上昇に対してインス	た。
国人の診療を含む、国際				リン自動注入のオートモード機能を備えたハ	740
りに開かれた病院機能を				イブリッド型クローズドループのSAPが国内	○ センター病院、国府台病院ともに、全職員を
充実させること。				発売を迎え、現在27名の使用者(うち2021年	象とした医療安全研修・院内感染対策研修を実
肝炎対策基本法(平成				導入は3例)に対して切り替えを行うととも	し、研修当日に参加できなかった職員に対して
1年法律第97号) に基づ				に、新規導入希望者に対して対応中である。	e ラーニング等を活用したフォローアップを行
く肝炎対策の推進に関す				血糖管理の改善だけでなく良好なQOLの改善	ことにより、全ての研修会において受講率 10
る基本的な指針(平成28				が得られている。また、1型糖尿病の進行抑	を達成した。
F厚生労働省告示第278				制、根治に向けた取り組みとして、免疫修飾	2 12/10/01/06
号)に従い、肝炎予防、				療法および膵島移植の臨床試験を施行。膵β	(予算額・決算額の評価)
F炎医療の均てん化及び				細胞の破壊を阻止するために抗ヒト胸腺細胞	予算額 34, 297 百万円に対し、決算 33, 720 百万円に対し、
研究の促進等、肝炎の克				免疫グロブリンとペグ化顆粒球コロニー刺激	となり、118 百万円の減となった。これは主に
最に向けた取組をより一				因子製剤を併用した免疫修飾療法の臨床試験	外の固定資産を購入したことによる施設整備費の
<b>置進めること。</b>				を実施。現在治療群10例、対象群10例の登録	によるものである。
また、各病院の医療の				を終了し、試験は予定通り進行中である。膵	
質や機能の向上を図る観				島移植プロジェクトでは、臓器提供者の膵臓	(定量的指標)
点から、センターとして				から膵島を単離し、患者の肝臓内に点滴で細	■センター病院の救急搬送患者応需率:90%以上
是供することを求められ				胞を移植する臨床試験を実施。これまで1例	年度計画 90%以上
ている医療のレベルに見				で施行し、約10例が登録され膵島移植を待っ	年度実績 79.9%(対年度計画 88.8%)
今った臨床評価指標を策				ている状態である。膵島移植を行った1例は	127012 101070 (7.1 1 251 2 351 0 707
官し、医療の質の評価を				外来で経過を診ており、完全なインスリン離	■高度総合医療を要する多臓器不全を伴った重響
実施し、その結果を情報				脱は難しいものの、患者にとっての血糖管理	染症患者に対する集学的な集中治療の実施
発信すること。				の負担が大きく減った形を継続できている。	年度計画 80%以上
				さらに2021年度に脳死ドナーからの同種膵島	年度実績 79.2%(対年度計画 99.0%)
				移植を1例実施した。	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
				15 12 3 17 5 7/2 5 7 2 5	■国府台地区における精神科救急入院病棟及び料
	ウイルス肝炎患者に対	ウ 厚生労働省肝炎政策研究	<評価の視点>	ウ	科急性期治療病棟への入院患者の重症身体合何
	し、肝臓学会治療ガイドラ	班と連携し、全国肝疾患診	・ウイルス肝炎患者	<ul><li>厚生労働省肝炎政策研究班「肝炎総合政策の</li></ul>	率
	インに沿って、患者の病態	療連携拠点病院、全国肝疾	に対する病態に応	拡充への新たなアプローチに関する研究(代表	年度計画 15%以上
	(肝線維化等の発がんリス	患専門医療機関を対象に、	じた抗ウイルス治	: 考藤達哉) 」と連携し、全国肝疾患診療連携	年度実績 18.4%(対年度計画 122.7%)
	ク等)に応じた抗ウイルス	ウイルス肝炎患者に対する	療の提供	拠点病院 (71施設) を対象に、肝炎医療指標の	
	治療を提供する。C型肝炎患	肝炎医療指標の達成状況調		達成状況調査を行い、肝炎医療の均てん化のた	■セカンドオピニオン実施件数
	者に対しては、HCV遺伝子薬	査を行い、肝炎医療の均て		めの課題の抽出と改善策の検討を行った。2018	年度計画 160 件以上
	剤耐性変異の有無を測定	ん化のための課題の抽出と		年度から開始し、2021年度は4回目の調査 (32	年度実績 229226件(対年度計画 143.1441.3%)
	し、2回目以降の DAA (直	改善策の検討を行う。同肝		指標、2020、2021年度は29指標)を実施した。	
	接作用型抗ウイルス薬)を	炎医療指標調査の中で、2		拠点病院においては、高い指標値で均てん化さ	■医療安全管理委員会やリスクマネージャー会
	用いたインターフェロンフ	回目以降の DAA (直接作用		れた肝炎医療が提供されていた。その中で、2	開催回数:1回以上/月
	リー治療の適正化を行う。	型抗ウイルス薬)治療前の		回めDAA治療前のHCV耐性変異検査の実施、電子	年度計画 開催回数:各1回以上/月
	肝炎情報センターと連携	HCV 遺伝子薬剤耐性変異の		カルテアラートシステムを用いたウイルス肝炎	年度実績 開催回数:各1回/月
	1 地域・職域における旺	測学供知調本を行いてい		・	(執計画 100 0%)

し、地域・職域における肝

測定状況調査を行い、イン

患者の院内紹介実績に関しては指標値0.6とや

(対計画 100.0%)

中長期目標	中長期計画	令和3年度計画	主な評価軸(評価の視		<b>経績等・自己評価</b>
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
	※患者の掘り起こしを推進	ターフェロンフリー治療の		のプレハわけ用った。た 9000年度は仕用させ	(センター病院・国府台病院とも)
	7 (10 H ) AH / /C = 0 C / IM/C			や不十分な結果であった。2022年度は結果を基	(センダー病院・国府首病院とも)
	する。	適正化を行う。肝炎情報セ		に改善に向けて提言を行う。	■医療皮入除木香具入の開催回数 0回 /左
		ンターと連携し、地域・職			■医療安全監査委員会の開催回数:2回/年
		域における肝炎患者の掘り			年度計画 開催回数:2回以上/月
		起こしを推進する。			年度実績 開催回数:2回/月(センター病院) (対計画100.0%)
	内視鏡手術やロボット手	エ 内視鏡下手術やロボット	<評価の視点>	工	
	術等の高度な手術を展開	支援下手術(ダビンチ)等	・内視鏡手術やロボ	・ 2019年度から高難度新規技術としてロボッ	※国府台病院は、特定機能病院のため該当なし
	し、高度な技術を有する医	の高度な手術の展開を図る	ット手術等の先端	ト支援下腎部分切除術14例、ロボット支援下	
	師を育成することなどによ	とともに、高難度新規医療	的医療の充実	子宮全摘術75例が安全に施行され、いずれも	■e-ラーニングによる医療安全研修会・院内感
	り、先端的医療の充実を図	技術を積極的に導入する。	7.52200	特に大きな合併症もなく良好な経過をたどっ	策研修会の開催回数:2回以上/年
	る。ハイブリッド手術室を	肥満に対する手術以外に、		ている。	年度計画 開催回数:各2回以上/月
	開設する等して低侵襲・高	令和2年度に保険収載され		<ul><li>・ 婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術は開</li></ul>	年度実績 開催回数:各2回/月(対計画100.0
	精度な手術を実践すること	た新たな6種類の手術(膵		腹手術に比べ切開創が小さいことから、術後	,
	により、安全で質の高い医	頭十二指腸切除、肺悪性腫		の痛みが軽減されるばかりでなく肥満による	(センター病院・国府台病院とも)
	療を提供する。また、体外			術創部の縫合不全のリスクを回避できるこ	(CV) MINE BIN DIMPLE OF
	授精医療を推進し、分娩件	出、食道悪性腫瘍、膵体尾		と、術中出血が少ないことから輸血のリスク	■入院患者数:
	数の増加も図る。	部切除、腎盂尿管吻合術な		を回避できること、腹腔内への侵襲が少ない	年度計画 センター病院:630.0 人/日
	数の増加も因る。	ど)に積極的に取り組み、		ことから腸閉塞などの術後合併症も減少でき	国府台病院 : 306.5 人/日
		高度で低侵襲な医療を国民		ること、さらには傷が小さくて目立たないと	年度実績 センター病院:548.4 人/日
		に提供する。また、婦人科		いう整容上のメリットも期待されている。術	(対計画 87.0%)
		腫瘍領域で今後重要となる			国府台病院 : 280.6 人/日
		腹腔鏡下傍大動脈リンパ節		場合には術後早期に実施可能となる。また入	(対計画 91.5%)
		郭清術の導入を目指す。		院期間の短縮や早期社会復帰が可能などのメ	
				リットもある。安全で質の高い低侵襲手術を	■外来患者数:
				提供することを目的として患者の同意を前提	年度計画 センター病院:1,745.1 人/日
				とした腹腔鏡下悪性腫瘍手術による治療を立	国府台病院 : 808.9 人/日
				案し、センター病院内の運営企画会議で承認	年度実績 センター病院: 1,521.11,505.8 人/
				されている。2020年度は6例の腹腔鏡下子宮	(対計画 <u>87. 2<del>86. 3</del></u> %)
				悪性腫瘍手術を施行しているほか、ロボット	国府台病院 : 771.5 人/日
				支援下子宮全摘は49例を安全に施行終了して	(対計画 95.4%)
				おり、今後の症例の蓄積が待たれる。	
				・以下は2021年度実績である。	■初診患者数(入院):
				腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援	年度計画 センター病院: 19.9 人/日
				機器を用いるもの)12例	国府台病院 : 13.3 人/日
				腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用	年度実績 センター病院: 42.8 人/日
				支援機器を用いるもの)40例	(対計画 215.1%)
				腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術	国府台病院 : 12.6 人/日
				・手術用支援機器使用)27例	(対計画 94.7%)
				腹腔鏡下腟式子宮全摘術(内視鏡手術用支援	
				機器を用いて行った場合)42例	
				胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)(内視	■初診患者数(外来):
				鏡手術用支援機器を用いて行った場合)	年度計画 センター病院: 157.0 人/日
				12例	国府台病院 : 35.7人/日
					年度実績 センター病院: 134.5 人/日
					(対計画 85.7%)

				<b>経績等・自己評価</b>
		点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
			胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺	国府台病院 : 37.7 人/日
			葉を超えるもの) (内視鏡手術用支援機器を	(対計画 105.6%)
			用いて行った場合)24例	(利用岡105.070)
			胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支	■病床利用率:
			授機器を用いて行った場合) 9例	■ 年度計画 センター病院: 89.9%
			腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限	国府台病院 : 91.4%
			る。) 11例	年度実績 センター病院: 84.883.7%
			以上総計177例である。	(対計画 94. 3 <del>93. 1</del> %)
			≫ <u> </u>	国府台病院 : 83.8%
	オ 体外受精等の高度生殖医		オ	(対計画 91.7%)
	療や悪性腫瘍治療開始前の		へ 体外受精・胚移植などの高度生殖医療の各	(Дигед 01. 1 70)
	卵子・精子の凍結保存事業		手技の実施数は、2014年開設以来、2015年度	■ 平均在院日数:
	を推進する。分娩件数の増		の91件、2016年度140件、2017年度188件、20	年度計画 センター病院: 13.1 日
	加を図り、安全な無痛分娩		18年度247件、2019年度192件、2020年度171	国府台病院 : 15.6日
	が実施できる体制を構築す		件、2021年度212件となった。また、院内の	年度実績 センター病院: 12.8日
	る。		悪性腫瘍患者に対する受精卵凍結および精子	(対計画 102.3%)
			凍結といった妊孕性温存治療のカウンセリン	国府台病院 : 11.811.7日
			グを積極的に行なっており、2021年度は9件	(対計画 <u>132</u> , 2 <del>133</del> ,
			のカウンセリングと2件の精子凍結を施行し	
			た。不妊専門のクリニックでは診療できない	■ 手術件数:
			合併症を持つ不妊患者の診療に特化してお	年度計画 センター病院: 6,800件
			り、ハイリスク妊娠となったあともシームレ	国府台病院 : 1,703件
			スに周産期部門で妊娠管理をしている。また	年度実績 センター病院: 5,399件
			子宮筋腫及び子宮内膜症を抱えた不妊患者に	(対計画 79.4%)
			は腹腔鏡手術と高度生殖医療を併用し、当該	国府台病院 : <u>2,063<del>2,977</del></u> 件
			患者は18例と増加している。分娩件数は2021	(対計画 <u>121. 1</u> <del>174.</del>
			年度308件と昨年の403件より大幅な減少傾向	
			であるが、ほとんどが他院での高度生殖医療	■ 紹介率:
			による妊娠症例や合併症妊娠の症例である。	年度計画 センター病院: 100.0%
			また、晩婚晩産化にともなうハイリスク分娩	国府台病院 : 75.0%
			症例に対応し、安全な妊娠分娩管理を行なっ	年度実績 センター病院: <u>113.1</u> 100.5%
			ている。今後は妊娠高血圧症に対する無痛分	(対計画 <u>113, 1</u> <del>100.</del>
			娩による安全な分娩管理を目標に、2022年6	国府台病院 : <u>67.582.1</u> %
			月の初回症例導入を計画し安全な無痛分娩の	(対計画 <u>90. 0</u> <del>109. 8</del>
			導入を目指している。	- V/4/71 A - 1-
	)			■ 逆紹介率:
	カがん診療連携拠点病院と		カがんゲノム医療中核拠点病院である東京大	年度計画 センター病院: 70.0%
	しての診療体制の拡充を図		学医学部附属病院の連携病院として、がんゲ	国府台病院 : 85.0%
	るとともに、がんゲノム医療事権院際したでは、		ノム医療の実装している。	年度実績 センター病院: <u>81.469.7</u> %
	療連携病院としてがんゲノ			(対計画 <u>116. 399. 6</u>
	ム医療中核拠点病院と連携			国府台病院 : <u>85.675.1</u> %
	し、がんゲノム医療を提供			(対計画 100.788.4
	する。また、がん総合診療 センターにおいて、国内の			(その他考慮すべき要素) 数値日煙な達成したほか、毛海支援ロボル
	〒癌患者に対する治療実態			数値目標を達成したほか、手術支援ロボッ 用した手術の実施、世界の感染症の情報の収:
				内外の知見の発信、厚生労働省による全国教(

中長 期 目 標	中長期計画	令 和 3 年 度 計 画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等・自i	2評価
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
				も、2016年6月よりセカンドオピニオン外来	
				を実施している。2021年度の実施件数は229 <del>2</del>	
				<del>26</del> 件(センター病院 <u>226<del>223</del></u> 件、国府台病院3	
				件)となり目標を達成することができた。	
	   ② 患者等参加型医療の推	   ② 患者等参加型医療の推進	<評価の視点>	   ② 患者等参加型医療の推進	
	進		〇 患者の視点に立		
	患者の視点に立った医	ア 患者の視点に立った医療	った医療の提供を	ア	
	療の提供を行うため、定	の提供を行うため、前年度	行うため、患者満	・ 2021年度においても、医療の質向上委員会	
	期的に患者満足度調査を	に実施した患者満足度調査	足度調査結果の活	(国府台病院は患者サービス向上委員会)を	
	実施し、その結果を業務	及びその分析結果をもと	用など、患者の意	毎月1回定期的に開催し、委員会で審議を行	
	の改善に活用するととも	に、必要なサービスの改善	見を反映した医療	い必要なサービス改善に取り組んでいる。	
	に意見箱を活用するな	(特に接遇面の改善等)を	の取組を着実に実	・病院における患者サービスの向上を図るこ	
	ど、患者の意見を反映し	行うとともに、本年度にお		とを目的とし、2021年度からは日本医療機能	
	た医療の取組みを着実に	いても患者満足度調査を実		評価機構の満足度支援ツールに参加し、通年	
	実施し、患者サービスの	施する。	ているか。	で患者満足度調査を実施している。また、年	
	改善について積極的な推			2回行われるベンチマークの結果も踏まえた	
	進を図る。			集計を行っている。	
	また、積極的に病院ボ			【センター病院】 ・ 10月の退院患者、10月7~11日の外来患者	
	ランティアを受け入れ、医療に対する理解の向上に努			に対して実施し、退院患者650人、外来患者2	
	別で 別 する 全 解 の 同 工 に 男 と める。			, 269人より回答を得た。結果については、院	
	w.5°			内ホームページに掲載し職員への周知を行っ	
				た。	
				【国府台病院】	
				・満足度調査は、入院については調査期間(	
				2021年11月1日から2021年11月30日まで)の	
				退院患者のうち協力を得られた120人、外来	
				については、調査期間(2021年11月15日から	
				2021年11月19日まで)に来院された外来患者	
				のうち協力の得られた170人について実施し	
				た。なお、2020年度より国府台病院独自の調	
				査用紙を作成している。	
		イ 院内に設置してある意見		1	
		箱を活用し、患者からの生		【センター病院】	
		の声をくみ上げ、患者サー		・「ご意見箱」を外来部門4箇所、病棟部門12	
		ビスの改善について積極的		箇所の合計16箇所に設置し、患者さんの「生	
		な推進を図る。投書者への		の声」をくみ取ることができるようにしてい	
		回答についてはホームペー		る。また、「ご意見箱」に投書された患者か	
		ジや院内に掲示し改善状況		らの意見等は定期的に回収し、翌朝の病院経	
		について呈示する。		営会議で幹部に報告し、対応する部署を決定	
				している。また、毎月開催される「医療の質	
				向上委員会」にて改善策等の検討を行い、ご	
			i	┃ 意見に対する返信コメントを病院ホームペー ┃	

中長期目標	中長期計画	令和3年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等	■自己評価
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
		T	T		
				ニュアルを整備し、実効性のある診療体制を 整備している。	
				EM O CV So	
		エ 専門性の高い医療補助員		エ 医療事務、看護、コメディカル等、各部門	
		の育成による医療業務分担 の推進を図る。		において医療補助員の育成に努めている。	
		   オ HIV患者の90%以上にチ		   オ ACC通院患者の90.8%にチーム医療を提供し	
		ーム医療を提供する。		た。	
		   カ チーム医療を担う糖尿病		   カ 4名糖尿病療養指導士(CDEJ)数を維持	
		療養指導士(CDEJ)の資格を		し、計18名である。	
		取得したスタッフの増加を			
		図る。			
		キ 入退院支援センターでの		キ 2021年度はCOVID-19の流行の程度に合わせ	
		多職種チームによる現行の		て柔軟に病棟運営を行い、2020年度と比較	
		入院診療サポート体制を検		し、介入件数2,463件と113.3%増加した。内	
		証し、全入院患者に介入で		科疾患や診療科の介入を広げたことにより、	
		きる体制に向けての整備を 行う。		入院時支援加算取得の増加につながった。ま   た医師や病棟看護師の業務負担軽減の効果も	
		11 20		見られている。	
		   ク 看護師の特定行為研修を		   ク 2022年3月、新たに脳卒中センターを開設	
		さらに充実させ、円滑なタ		し、4階にあったSCU病棟を9階に移転、6床か	
		スク・シフティングを実施		ら9床に増床した。また病棟内のリハビリテ	
		するとともに、医師の残業		ーション室も拡張し、脳卒中後の回復に向け	
		時間の短縮や有給休暇の取		て早期のリハビリが今まで以上に積極的に取	
		得率向上を目指し、働き方 改革に病院全体として取り		り組めるようになった。	
		組む。6床から9床に増床			
		された SCU を併設した脳			
		卒中センターを病棟内に開			
		設し、一層の多職種連携を			
		推進する。			
		④ 入院時から地域ケアを見		④ 入院時から地域ケアを見通した医療の提供	
	<b>見通した医療の提供</b> 患者に対して、切れ目	通した医療の提供	○ 切れ目なく適切 な医療を提供でき		
	思有に対して、切れ日 なく適切な医療を提供で	ア 患者に対して切れ目なく	な医療を提供でき るよう、地域の診	   ア 連携病院との連携強化を深めるため、近隣	
	きるよう、地域の診療所	適切な医療を提供できるよ	療所や病院との役	の医師会や医療機関を訪問するなどして、紹	
	や病院との役割分担を図		割分担を図るとと	介率・逆紹介率の向上を図っている。	
	るとともに、連携室の機		もに、紹介患者の	○紹介率 センター病院 国府台病院	
	能を強化し、紹介患者の		獲得や逆紹介を進	2021' <u>113. 1</u> 100. 5% <u>6</u>	
	獲得や患者に適した医療	適した医療機関(かかりつけ医)への紹介を進める。	めるため、連携医 に向けた研修会、	7.582.1% ○逆紹介率 センター病院 国府台病院	

中長期目標	中長期計画	令和3年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等 • 自	己評価
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
			T		
	機関(かかりつけ医)へ		協議会の開催等に	2021' <u>81. 469. 7</u> % <u>85</u>	
	の逆紹介を進める。		より、広範囲の地	<u>. 675. 1</u> %	
	地域に開かれた市民公		域の医療機関等と	【センター病院】	
	開講座や連携医に向けた		の連携の強化を図	ナショナルセンター唯一の総合病院とし	
	研修会・協議会の開催に		っているか。	て、地域の医療機関、医師会から信頼される	
	より、情報の共有を図り			病院を目指している。地元医師会との共同研	
	地域の保健医療機関との			修の開催、連携医への院内研修の参加案内等	
	ネットワーク強化に取り			を行うなど密な連携を図るとともに、令和2	
	組むとともに、近隣地域			年度は157施設の医療機関等の訪問を実施し	
	のみならず、より広範囲			た。COVID-19禍のため、例年行っていたNCGM	
	の地域の医療機関等との			医療連携の会は中止をよぎなくされたが、令	
	連携の強化を図る。			和3年2月22日にオンラインでのNCGM医療連携	
				の会を開催した。オンラインでのNCGM医療連	
				携の会は300名を越える参加者があり、内容	
				についても高い評価をうけ、新たな連携医を	
				得る機会となった。地域連携予約枠は順調に	
				稼働し、連携登録医や人間ドックからの紹介	
				患者に対して柔軟な対応を継続している。	
				【国府台病院】	
				2017年2月に地域医療支援病院に承認され	
				地域の中核病院として一層、地域医療への貢	
				献を目指している。	
				連携医制度の更なる周知を行い、2021年度	
				末現在373人の先生に登録いただいている。	
				また、それらの先生方が参加する「国府台医	
				療連携フォーラム」を毎年開催しています	
				が、2021年度はCOVID-19の影響により、初め	
				て会場参加とリモート参加のハイブリッド形	
				式で開催しました。また、地域の医療機関や	
				医師会に対し医療機器の整備状況の説明、パ	
				ンフレット、ホームページによる広報活動を	
				積極的に実施するなど医療機関との連携を強	
				化することにより、地域連携開業医から直接	
				画像検査の依頼を受け付け、専門医による読	
				影結果を返却するという事業は、以下に示す	
				様に順調に発展している。	
				【画像診断器機の共同利用】	
				センター病院 国府台病院	
		イ 他院で診断されたHIV患者	4	2021' 1,331件 1,100件	
		に対する紹介率80%以上、			
		逆紹介率40%以上を達成す		イ ACCの新患患者数における紹介率は、95.	
		る。		9% (93/97) であったが、SH外来での新患数	
				が13名、NCGM他科からの新患が19例であっ	
			1	た。一方、逆紹介率は、82.9%(107/129)	

長期目標	中長期計画	令 和 3 年 度 計 画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等・自i	<b>己評価</b>
			点)、指標等	主な業務実績等	
	⑥ 病院運営の効果的・効	⑥ 病院運営の効果的・効率		⑥ 病院運営の効果的・効率的実施	
	率的実施.	的実施	■ 入院患者数:年		
			度計画において数		
		ア 効果的かつ効率的に病院		P	
	運営を行うため、病院全体			【センター病院】	
	及び診療科毎における入院	度における年間の入院患者		センター病院においては、地域医療連携の	
	患者数、外来患者数、初診	数等の目標を以下のとおり		推進や病床管理基準の作成・運用等による患	
	患者数(入院、外来)、病		■ 初診患者数(入	者確保や高難易度手術件数増を図った結果、	
	床利用率、平均在院日数、	(センター病院)	院): 年度計画に	以下のとおりとなった。	
	手術件数、紹介率、逆紹介	1日平均入院患者数	おいて数値目標を	1日平均入院患者数 548.4人	
	率について、年度計画にお	630.0人	定める	1日平均外来患者数 <u>1,521.1</u> <del>1,505.8</del> 人	
	いて数値目標を定めて取り		■ 初診患者数(外	初診患者数(入院) 42.8人	
	組む。	19. 9人		初診患者数(外来) 134.5人	
	また、入院実患者数の実		おいて数値目標を	病床利用率 <u>84.8<del>83.7</del>%</u>	
	績について、感染症その他	89.9%	定める	平均在院日数(一般) 12.8日	
	の疾患にかかる割合を分析	平均在院日数 (一般)	■ 病床利用率:年	手術件数 5,399件	
	し、より効果的・効率的な	13.1日	度計画において数	紹介率 <u>113. 1</u> <del>100. 5</del> %	
	病棟運営に活用する。	年間手術件数	値目標を定める	逆紹介率 <u>81. 4<del>69. 7</del>%</u>	
	DPCを活用した経営対策	, , , , ,	■ 平均在院日数:		
	を進め、在院日数の短縮、	1日平均外来患者数	年度計画において	【国府台病院】	
	新入院患者数の確保を図る	1,745.1人		国府台病院においては、一層の診療機能・	
	とともに医療材料等の経費	The state of the s	■ 手術件数:年度	体制の充実強化を図るとともに、引き続き地	
	削減対策を進める。	157.0人		域医療連携の推進等による患者確保に努めた	
	経営指標を全職員に分か		目標を定める	結果、以下のとおりとなった。	
	りやすい形で提示し、経営	逆紹介率 70.0%	■ 紹介率:年度計	1日平均入院患者数 280.6人	
	マインドの向上を図ること		画において数値目	1日平均外来患者数 771.5人	
	により、さらなる経営基盤		標を定める	初診患者数(入院) 12.6人	
	の充実を目指す。	1日平均入院患者数	■ 逆紹介率:年度	初診患者数(外来) 37.7人	
	人員及び医療機器購入な		計画において数値	病床利用率 83.8%	
	どについて、診療や研究開		目標を定める	平均在院日数(一般) <u>11.8</u> <del>11.7</del> 日	
	発等への意義を評価するこ	13. 3人		手術件数 <u>2,0632,977</u> 件	
	とにより、適切に配置を行	年間平均病床利用率		紹介率 <u>67. 5</u> <del>82. 1</del> %	
	う。	91.4%	<評価の視点>	逆紹介率 <u>85. 675. 1</u> %	
		平均在院日数(一般)	○ 入院実患者数の		
		15.6日	実績における感染		
		年間手術件数	症その他の疾患に		
		1,703件	かかる割合の分析		
		1日平均外来患者数	や、DPCを活用した		
		808.9人	経営対策等によ		
		初診患者数(外来)	り、効果的・効率		
		35. 7人	的な運営に努めて		
		紹介率 75.0%	いるか。		

## 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 令和4事業年度業務実績評価書

	【難易度:高】  感染症その他疾患に対する革新的な医療技術の開発は、新たな標的分子の候補を決定することが求められ、そのための機能解析や臨床有用性の評価は技術的に相当な困難を伴い、その成果である未来型医療の展開を目指す取組は世界でも始まったばかりであるため。 また、途上国で蔓延する感染症、生活習慣病等の疾患に対して、医療技術やサービス提供の開発を進めていく際に、その国の社会的・経済的状況と共に、脆弱な医療提供体制を考慮して取り組むことが求められるため。
	(定量的指標) 本欄「(2) 目標と実績の比較」に記載
	(定量的指標以外) 担当領域の特性を踏まえた戦略的かつ重点的な研究・開発の推進 具体的には、 ① 疾病に着目した研究 ・感染症その他の疾患の本態解明 ・疾患の実態把握 ・高度先駆的及び標準的予防、診断、治療法の開発の推進 ・医薬品及び医療機器の開発の推進 ② 均てん化に着目した研究 ・医療の均てん化手法の開発の推進 ・情報発信手法の開発 ③ 国際保健医療協力に関する研究 ・国際保健医療協力に関する研究 ・国際保健医療水準向上の効果的な推進に必要な研究 ・グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)の機能整備と国際保健に資する政策科学研究 ④ NC間の連携領域における連携
	(2) 目標と実績の比較 (定量的指標) ・感染症その他の疾患の解明と医療推進に大きく貢献する研究成果 中長期目標 累計 26 件 年度計画 年 5 件 実績 7 件 (対年度計画 140.0%) ・原著論文数 中長期目標 累計 2,100 件 年度計画 年 350 件 実績 409 件 (対年度計画 116.9116.8%)
	(3) その他考慮すべき要素 (定量的指標以外の成果) ・ 新規エイズ治療候補薬:イスラトラビル (ISL) の臨床開発 満屋グループが開発した新規の核酸系逆転写酵素阻害剤 ISLを米 国メルク社に導出、ISL は HIV/AIDS 治療と感染予防で劇的な変革を もたらすと期待され、日本でも画期的創薬の開発が可能である事が 示された。第3相国際共同試験が 令和4年9月に開始され NCGM は 日本で最大数の治験症例を担当。更に2022年末までのデータで、

中長期目標	中長期計画	令和4年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務	<b>実績等・自己評価</b>
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
	T			→ Lo HTUTÄÄ→ O. DISL→ IO NEH HOLEĞ	点点相似点点   1   1   1   1   1   1   1   1   1
				され、HIV感染を3ヶ月にわたり効果的にブロック、恐らく1年にわたって防御する可能性が	痛や慢性疼痛など、神経因性疼痛をターゲット。 した新規カテゴリーの鎮痛薬開発へ向けて、公益
				示された。ISLはHIV治療と感染予防で	財団法人微生物化学研究所との共同で、天然物
				「first-in-class」の抗HIV-1治療薬として	来の化合物探索を進め、いくつかの有力候補を
				「game-changer・paradigm shift」となると	ている。また、脂質生命科学研究部では、製薬
				期待されており、日本でもイノベーティブな	業との連携でin vivoでPAF産生を抑制する化合
				創薬が可能である事が示された。米国メルク	を見つけた。
				社/日本MSD社はISLの複数の第3相臨床試験を	
				国際共同試験として令和2年2月に開始、NCGM	
				は日本で最大数の治験症例を担当している。	○ 植木グループはインスリン作用を担う分子 Д
				令和3年12月になって、一部の臨床試験対象者	骨格筋特異的に欠損したマウスではサルコペコ
				でCD4陽性Tリンパ球減少症が観察されて、一	起き、肥満がなくても糖尿病を発症、インス!
				部の臨床試験が原因究明とリンパ球減少症の	用不足によって骨格筋ミトコンドリア異常が起
				改善を図るなどの為に中断されたが、令和4年	サルコペニアをきたす事を世界に先駆けて示
				9月にislatravirを減量した上での第2相及び	このマウスでは、通常食ではフレイルで寿命
				5つ以上の第3相臨床試験が再開されており、	縮、高脂肪食でサルコペニア肥満にすると、
				NCGMのACCは本邦で最大の治験参加者数を担当	加してやはり寿命が短縮する事からサルコペ
				している。	骨格筋が癌増殖因子を分泌していると示唆し
					尿病で活性化している転写因子 FoxO の欠損
				・ 令和3年度実績について、B型肝炎治療に対	ると、筋肉量が回復し、寿命も正常化する
				する治療法はラミブジン(3TC)、エンテカビ	FoxO 抑制剤がサルコペニア予防・治療に資
				ル(ETV)、アデフォビル等のHBV逆転写酵素阻	能性を示した (Sasako & Ueki. <i>Nat Commun</i> 202)
				害剤の臨床応用で肝癌発症の激減など格段の	
				進展を迎えたが、耐性HBV変異株(HBV <sup>R</sup> )が出	(分表於無序如上人)。一十八字如此
				現、そうしたHBV <sup>®</sup> 感染者は国内だけでも数千 人に達するとされる。満屋グループは、その	(参考指標情報とインプット情報の対比)
				ようなHBV <sup>®</sup> に対しても強力な活性を有する新	<ul><li>研究成果の指標である原著論文数とインプッ の決算額を対比したところ、原著論文Ⅰ件あた</li></ul>
				規の化合物 ( $E$ -CFCP) の独自でのデザイン・合	用は3,094 千円である。これは、前年度と比較
				成・同定に成功した。同グループは $E$ -CFCPが	94 千円増(3.1%増減)であった。
				3TCやETVが無効のHBV®感染ヒト肝キメラマウ	34     1 1   1   1   1   1   1   1   1
				スへの2週間経口投与で、2~3 logs または	   (予算額・決算額の評価)
				それ以上のHBV <sup>R</sup> コピー数の低下をもたらす事	予算額 1,533 百万円に対し、決算額 1,265 百
				を示し、細胞培養下とゲッ歯類でのETVより	なり、268 百万円の減となった。これは主に業
				高い安全性を確認している。E-CFCPは核酸系	の減、固定資産の購入を抑制したことによるも
				HBV逆転写酵素阻害剤で糖部分に、上述のISL	る。
				と同様、フッ素が配されており、ヒト肝細胞	
				内で効果的に活性化(3リン酸化)されると、	(定量的指標)
				細胞内に比較的長期にわたり滞留することか	■感染症その他の疾患の解明と医療推進に大き
				ら、ETVやTAF等は1日1回の服薬が必要である	する成果
				が、E-CFCPは体内での安定性が高く、1週に1	中長期目標 累計 26 件以上
				回の服薬レジメンが可能で、感染者のQOLを	年度計画 5 件程度
				大いに改善すると期待されている。これらか	年度実績 7件(対年度計画 140%)
				ら、令和4年度にて既感染細胞内でのHBV-DNA	
				産生を完全に阻止 (DNA-chain terminate)	■原著論文数
				する可能性が示され、HBVに感染したヒト肝	中長期目標 年 350 件(第 2 期中期目標期間の平
				細胞マウスを用いた実験で証明した(	年度計画 350件
				Higashi-Kuwata & Mitsuya, 2022, 未発表デ	年度実績 409件(対年度計画 <u>116.9116.8</u> %)

中長期目標	中長期計画	令 和 4 年 度 計 画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等・	自己評価
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
				た医師主導治験1 (膵がん)、企業治験1	
				(大腸がん)、化合物の海外導出(うつ病)	
				などの成果について、令和4年度は英文原著	
				2 1 報 (累計 2 5 報) にまとめた。令和4~5	
				年度は引き続き、共同研究先の企業との合意	
				7 - 2 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 -	
				に基づき、それぞれの疾患のオミクス情報の	
				データベースの作成を進めている。	
				・ 未だに治療薬の存在しない「神経障害性疼	
				痛」(がん、糖尿病性神経症などに続発)の	
				発症に血小板活性化因子(PAF)が重要な役	
				割を果たすことを明らかにした(Shindou	
				et. al. FASEB J. 2017) ことから、令和4年	
				度も継続してがんの難治性疼痛や慢性疼痛な	
				ど、神経因性疼痛をターゲットとした新規カ	
				テゴリーの鎮痛薬開発へ向けて、公益財団法	
				人微生物化学研究所との共同で、天然物由来	
				の化合物探索を進め、いくつかの有力候補を	
				得ている。また、脂質生命科学研究部では、	
				製薬企業との連携でin vivoでPAF産生を抑制	
				する化合物を見つけた。	
				, 3,34 M C /8 - 1/ (C)	
				・ 原著論文については、センター全体で年間	
				409件を発表し、中長期計画を踏襲し設定さ	
				れた年度計画の「350件以上」とする目標を	
				上回り、達成度は <u>116.9<del>116.8</del></u> %となった。	
	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	〇 具体的方針		○ 具体的方針	
	(疾病に着目した研究)	(疾病に着目した研究)		(疾病に着目した研究)	
		① 感染症その他の疾患の本		① 感染症その他の疾患の本態解明	
	本態解明	態解明			
	感染症その他の疾患に				
	ついて、発症機序や病態				
	の解明につながる以下を				
	含む研究を実施する。				
	ア HIV感染症患者と悪性疾			The literatural life feel of the literature life life	
				・ 新規HIV診断例の59人に対し、薬剤耐性検	
	を行う。	の合併症に関する研究を実		査を行った。定期通院している薬害エイズ	
		施する。		被害者のほぼ全員が癌スクリーニング・循	
				環器スクリーニング研究に参加し、今年度	
				は36名に癌スクリーニング、13名に循環器	
				スクリーニングを行った。癌スクリーニン	
				グ・循環器スクリーニングの重要性を各ブ	
				ロックの連絡会議で講演し、全国への均て	

1977		10 ( 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	1 20 100-4							
1. 当事務及	び事業に関する基本情報									
1 - 2	研究開発に関する事項(実用化を目指した研究・開発の推進及び	「究開発に関する事項(実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備)								
関連する政策	・施策 基本目標:安心・信頼してかかれる医療の確保と国民の健康づくりの 推進	当該事業実施に係る根拠(個 別法条文など)	高度専門医療に関する研究等を行う国立研究開発法人に関する法律 第16条							
	施策目標:政策医療の向上・均てん化									
当該項目の重 易度	要度、難 【重要度:高】 実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備は、国民が健康な生活及び長寿を享 することのできる社会を形成するために極めて重要であり、研究と臨床を一体的に推 できる NC の特長を活かすことにより、研究成果の実用化に大きく貢献することが求 られているため。	進 評価・行政事業レビュー								

#### 2. 主要な経年データ

2: 工女な怪干/ /														
主な参考指標情報								②主要なインプット	情報(財務情	報及び人員に	関する情報)			
	基準値等	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度		R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
First in human (ヒ トに初めて投与す る) 試験実施件数:	中長期目標期間 において、 1件以上 (令和4年度計画では、	件	0件	件	件	件	件	予算額(千円)	6,699,034	10,065,751				
1件以上	研究対象の検討を開始)													
医師主導治験実施件 数	中長期目標期間 において、 14件以上 (合和4年度計画では、 年間3件以上)	<u>9</u> 2-件	6 件	件	件	件	件	決算額(千円)	8,193,117	8,153,490				
センターの研究開発 に基づくものを含む 先進医療承認件数: 26 件以上	中長期目標期間 において、 26件以上 (令和4年度計画では、 年間5件以上)	4 件	6 件	件	件	件	件	経常費用(千円)	7,806,387	9,506,582				
臨床研究(倫理委員 会にて承認された研 究をいう。)実施件数	中長期目標期間 において、 2,700 件以上 (令和4年度計画では、 年間450 件以上)	<u>454<del>623</del></u> 件	812 件	件	件	件	件	経常利益(千円)	871,403	1,034,422				
治験(製造販売後臨 床試験も含む)実施	中長期目標期間において、	<u>36</u> 39 件	26 件	件	件	件	件	行政コスト (千円)	7,899,056	9,593,841				
件数	180 件以上 (令和 4 年度計画では、 年間 20 件以上)							行政サービス実施 コスト (千円)	_	_				
学会等が作成する診療ガイドラインへの 採用件数	中長期目標期間 において、 120 件以上	42 件	35 件	件	件	件	件	従事人員数 令和4年4月1日 時点 (非常勤職員含 む)	286	322				

国際臨床研究実施件	中長期目標期間	<u>17<del>20</del></u> 件	<u>23</u> 17-件	件	件	件	件			
数	において、									
	10 件以上	各) 4	各)1件	各)	各)	各)	各) 件			
	(令和4年度計画では、	件	W) 0件	件	件	件	W) 件			
	年間5件以上)	W) 4		W)	W)	$\mathbf{W})$				
	・うち2件以上を	件		件	件	件				
	各国薬事承認または、									
	WHO 制度(PQ、EUL な									
	ど)の認証目的案件と									
	する									
外部機関等との共同	20 件以上/年	<u>115</u> 111	<u>114109</u>	件	件	件	件			
研究数		件	件							

3.	中長期目標、中長期				係る自己評価及び主務大			
	中長期目標	中長期計画	年度計画	主な評価軸(評		績等・自己評価 カスまが	主教	5大臣による評価
				価の視点)、指標等	主な業務実績等	自己評価		
				保守			 評定	A
							<評定に至った理由>	A
			另口 糸氏	に記載			(1) 主な目標の内容	
			23 124				○目標の重要度、難易度	
							【重要度:高】	
								開発の推進及び基盤整備は、国民が健康な生
								のできる社会を形成するために極めて重要で
								」に推進できるNCの特長を活かすことにより、
							研究成果の美用化に入さく	貢献することが求められているため。
							(定量的指標)	
							本欄「(2)目標と実統	責の比較」に記載
							, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
							(定量的指標以外)	
								<b>党・開発の推進及び基盤整備</b>
							具体的には、	<b>犯刺の実現</b>
							・臨床研究の中核的・バイオバンク・デ	役割の美現 ータセンターの整備・運営
								ノベーション・ネットワーク(CIN)の拡
							充・強化	
								療ネットワークの拡充
							・産官学等との連携	
							・生活習慣病の予防 ・知的財産の管理強	,
							・倫理性・透明性の	
							mu-111 (20)11110	tiber K.I
							(2) 目標と実績の比較	
							(定量的指標)	
								に初めて投与する)試験実施件数
								1件 対象の検討を開始する
								対象の検討を開始

	100 5 300 100
	・医師主導治験
	中長期目標 累計 14 件
	年度計画 年 3件
	実績   6 件 (対年度計画 200.0%)
	・センターの研究開発に基づくものを含む先進医療承認件数
	中長期目標 累計 26 件
	年度計画 年 5件
	実績 6 件 (対年度計画 120.0%)
	・臨床研究(倫理委員会にて承認された研究をいう)実施件数
	中長期目標 累計 2700 件
	年度計画 年 450 件
	・治験(製造販売後臨床試験も含む)実施件数
	中長期目標 累計 180 件
	年度計画 年 20 件
	実績 26 件 (対年度計画 130.0%)
	・学会等が作成する診療ガイドラインへの採用件数
	中長期目標 累計 120 件
	目標 年 20件(120件÷6年)
	実績 35 件 (対目標 175.0%)
	・国際臨床研究実施件数
	中長期計画 累計 10 件
	年度計画 年 5件
	実績 23 <del>22-</del> 件(対年度計画 460440.0%)
	・外部機関等との共同研究数
	中長期計画 年 20 件
	年度計画 年 20 件
	実績 <u>114109-</u> 件(対年度計画 <u>570</u> 545.0%)
	(3) その他考慮すべき要素
	(定量的指標以外の成果)
	・新興・再興感染症の研究・開発を促進するためのナショナル・リポ
	・利興・丹興感染症の研究・開発を促進するためのナショナル・サホジトリの構築
	厚生労働省事業「新興・再興感染症データバンク事業ナショナ
	ル・リポジトリ(REBIND)」を 2021 年度から受託しており、運営を
	継続した。参加医療機関は全国 25 医療機関に拡充し、COVID-19 に
	加えて、エムポックス及び小児肝炎を対象疾患に追加した。これま
	でに収集した生体試料は 6,018 例、14,705 件となった。利活用に
	ついては、テストランを行い、第3者利活用の準備を進めた。
	・国内外の薬事承認や WHO の認証制度向けを含む研究者主導臨床試験
	を企画・実施と国際 ARO アライアンス (ARISE) の基盤強化
	・薬事申請完了:1件消毒薬(ベトナム)
	・試験完了:6 件 SARS-CoV-2 抗原検査キット臨床性能試験 4 施設
	(ベトナム、フィリピン)、SARS-CoV-2 核酸増幅法臨床性能試験
	2 施設 (インドネシア、フィリピン)、マラリア核酸増幅法 4 試
	験 (タイ)
	・実施中:3 件うつ病への VR 治療薬(タイ)、薬剤感受性調査(ベ
	トナム)、MPOX 有効性、安全性試験 (コロンビア)
	・相談中:3 件 HBV 母子感染予防抗原検査キット、糖尿病、MPOX 試
	験実施可能性検討(いずれもアセアン)
	WK大/NE **J RELIX*(火車) (V・) 4 レ む / こ / ン /

中長期目標	中長期計画	令 和 4 年 度 計 画	主な評価軸(評価の視	法人の業務	実績等・自己評価
			点)、指標等 	主な業務実績等	自己評価
様に競争的研究資金を財	再生医療について品質管	ウ First in human試験実施		Ď	(予算額・決算額の評価)
源とする研究開発におい	理を行える体制の整備を図	に向けて研究対象の検討を		・ First in human 試験実施に向けて研究	予算額 10,066 百万円に対し、決算額 8,153 百万
てもセンターの取り組む	る。	開始する。		対象の検討を開始した。	となり、1,912 百万円の減となった。これは主に業
べき研究課題として適切	-				経費の減、施設整備費において計画外の固定資産を
なものを実施する仕組み		エ センターが主導する医師		工	入したことによる増によるものである。
を強化する。		主導治験を3件以上実施す		・ センターが主導する医師主導治験を6件実	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
,		る。		施した。	(定量的指標)
以上の実用化を目指し				•	■ First in human (ヒトに初めて投与する)
た研究・開発の推進及び		オ センターの研究開発に基		才	試験実施件数:1件以上(中長期計画)
基盤整備により、中長期		づくものを含む先進医療を		・ 先進医療Aは、センターにおいて令和4年	年度計画 研究対象の検討を開始する。
目標期間中に、First in		5件以上実施する。		度に3件実施している。	年度実績の研究対象の検討を開始した。
human(ヒトに初めて投				「ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患	
与する) 試験実施件数1				に対する迅速診断(PCR法)」を継続して実	■ 医師主導治験実施件数:14件以上(中長期計画
件以上、医師主導治験実				施し、不妊治療である「子宮内膜刺激術」	
施件数14件以上、センタ				「子宮内膜擦過術」を新たに開始した。	年度計画 3件以上実施
ーの研究開発に基づくも				・ 先進医療Bは、センターにおいて令和4年	年度実績 6件(対年度計画200%)
のを含む先進医療承認件				度に3件実施した。「腹膜偽粘液腫に対する	
数26件以上及び学会等が				完減量切除術における術中のマイトマイシ	■ センターの研究開発に基づくものを含む先進[
作成する診療ガイドライ				ンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル	療承認件数:26件以上(中長期計画)
ン等への採用件数120件				腹腔内投与の併用療法」(単施設試験)は	年度計画 5件以上実施
以上、臨床研究(倫理委				総括報告書の提出に向けて準備中であり、	年度実績 6件(対年度計画120%)
員会にて承認された研究				研究分担施設として心停止後症候群を対象	
をいう。) 実施件数2,70				とした「水素ガス吸入療法」を実施した。	■ 臨床研究(倫理委員会にて承認された研究を)
0件以上、治験(製造販				また、センターが主導して実施する「自家	う。)
売後臨床試験も含む。)					実施件数:2,700件以上(中長期計画)
180件以上実施するこ				登録している。	年度計画:450件以上実施
と。また、共同研究の実					年度実績:812件(対年度計画180.4%)
施件数について中長期計		カ 「人を対象とする生命科		カ	
画に具体的な目標を定め		学・医学系研究に関する倫		・「人を対象とする医学系研究に関する倫	■ 治験(製造販売後臨床試験を含む。)実施件
ること。		理指針」もしくは「人を対		理指針」に則って実施される臨床研究は368	: 180件以上(中長期計画)
また、研究開発の成果		象とする医学系研究に関す		件、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関す	年度計画 20件以上実施(うち新規10件以上)
の実用化及びこれによる		る倫理指針」に則って実施		る倫理指針」に則って実施される臨床研究	年度実績 26件
イノベーションの創出を		される臨床研究を450件以		は45件、両指針統合後の「人を対象とする	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
図るため、必要に応じ、		上実施する。		生命科学・医学系研究に関する倫理指針(	■ 学会等が作成する診療ガイドラインへの採用
科学技術・イノベーショ				令和3年6月30日施行)」に則って実施され	数:120件以上(中長期計画)
ン創出の活性化に関する				る臨床研究は399件、あわせて令和4年度に	年度実績 35件
法律(平成20年法律第63				812件実施した。	
号) に基づく出資並びに					■ 国際臨床研究実施件数:10件以上
人的及び技術的援助の手		キ 受託臨床研究(治験)を		+	うち2件以上を各国薬事承認を得る臨床試験または
段を活用すること。		20件以上実施する。治験の		・ 受託臨床研究(治験)を96件実施した。治	WHO制度の認証を得る臨床試験実施件数
		新規受託件数を10件以上と		験の新規受託件数を 26件実施した。	年度実績 <u>23</u> 17.件
【重要度:高】		する。			うち各国薬事承認を得る臨床試験実施件数:
実用化を目指した研究					1件以上
・開発の推進及び基盤整		ク 感染症を始めとする多施		ク	うちWHO制度の認証を得る臨床試験実施件数:
備は、国民が健康な生活		設共同研究を実施するため		<ul><li>新興感染症に迅速に対応する多施設共同</li></ul>	0件以上
及び長寿を享受すること		の国内の臨床試験ネットワ		研究を実施するための国内の臨床試験ネッ	

中長期目標	中長期計画	令和4年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等・	自己評価
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価
	標準化、研修協力、ITイン	 ど)を進める。アジアチー		活動、実際のプロジェクトの企画実施を開	
	フラ整備等を通じて国際臨	ムとして欧米の主要なグル		始し、国際保健におけるアンメットニーズ	
	床試験推進のプラットフォ	ープであるECRIN、CRIGH、		や緊急事態に対する診断治療開発等に対す	
	ームとする。	Harvard NWとの協力を進め		る臨床試験・エビデンス構築を行ってい	
	国内の関係機関とのプロ	る(すでに相互オブザーバ		る。	
	ジェクト創出を推進するた	参加を開始)。		・ また、国際的な緊急事態に係る各種政策	
	めに産学官連携プラットフ	参加を開始/。 国際感染症フォーラムを		提言プロセスに参加し、これをARISE内、あ	
		国际思葉症ノオーノムをオンライン及び国際シンポ			
	オームである国際感染症フ			るいは世界的なネットワークにおいて実際	
	オーラムでの国内外の情報	ジウム形式で開催する。前		のスキームとして構築する。想定シナリオ	
	共有、ニーズ・シーズマッ	年度に引き続き、世界各国		による図上演習や実際の国際緊急対応への	
	チング支援、産学官・NCへ	からの参加者に対し、日本		参加によるOJTも進める。これらを担う各国	
	の研究開発などのコンサル	と海外のステークホルダー		の人材育成のための標準化トレーニングプ	
	ト機能を促進する。	の協力による研究開発推進		ログラムを構築し実施した。	
	上記活動を通じて、国際	とグローバルヘルスへの貢		・ 企業 (登録138社、機関) を中心にステー	
	臨床研究を10件以上実施す	献活動について協議、発信		クホルダー全般に対して、第14回NCGM国際	
	る。うち各国薬事承認を得	する。また、医療製品を海		感染症フォーラム「日本から海外に発信 ~	
	る臨床試験を3件以上、WHO	外のアカデミア、医療機関		産官学の国際連携活動と医薬品・医療機器	
	制度の認証を得る臨床試験	、研究者に発信し、海外ニ		~」を6月にオンラインにて開催した。427	
	を1件以上実施する。	ーズを顕在化させていく活		名の事前登録があり、当日は298名が視聴し	
		動を行うとともに、臨床試		た。6社から海外の研究者に向けて医療プロ	
		験を通じた国際展開を進め		ダクト(今回は体外診断用医薬品と測定機	
		る。		器)の紹介を行った。令和5年1月には、第	
		海外での臨床研究・研究		15回NCGM国際感染症フォーラム「今、注目	
		開発案件として5件以上実		される感染症の最新情報-予防から治療まで	
		施する。うち2件以上を薬		-」をオンラインにて開催した。596名の事	
		事承認またはWHO制度 (PQ		前登録があり、当日は382名が視聴した、	
		、EULなど)の認証目的案		ARISE連携施設からの施設紹介、シンポジウ	
		件とする。		ムにて抗ウイルス薬、国際ワクチン、消毒	
				剤の開発状況、学術情報を提供した。	
				・ これまでに支援してきた臨床研究は23件	
				(マラリアIVD4件、AMR菌株調査研究2件、	
				SARS-CoV-2抗ウイルス薬6件、SARS-CoV-2の	
				IVD6件、うつ病1件、マラリア治療薬1件、	
				消毒剤1件、新生児敗血症1件、SARS-CoV-2	
				ワクチン1件)である。うち8件が終了(	
				SARS-CoV-2抗ウイルス薬6件、AMR菌株調査	
				研究1件)している。	
				明元11円) している。	
	   ⑤ 産学連携の強化	⑤ 産官学等との連携強化		⑤ 産官学等との連携強化	
	企業、日本医療研究開発				
		ア 外部機関等との共同研究		7	
	大規模治験実施医療機関等	を20件以上実施する。セン		<ul><li>・ 今年度に推進した外部研究機関と共同研究</li></ul>	
	との連携を図り、医療に結	ター内外から契約等の相談		等の契約数は114109件(うち新規共同研究契	
	びつく共同研究・委託研究	に円滑に対応するための体		約数は29件)であった。※令和5年3月末日時	
	や外部資金獲得等を支援・	制強化を図る。	1	点	

131-1		<u> </u>	F-207 190-4
1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
1 - 3	医療の提供に関する事項		
関連する政策・施策	基本目標:安心・信頼してかかれる医療の確保と国民の健康づくりの 推進 施策目標:政策医療の向上・均てん化	当該事業実施に係る根拠(個別法条文など)	高度専門医療に関する研究等を行う国立研究開発法人に関する法律 第16条
当該項目の重要度、難 易度	【重要度:高】 感染症その他の疾患に対する中核的な医療機関であり、研究開発成果の活用を前提と して、医療の高度化・複雑化に対応した医療を実施することは、我が国の医療レベルの 向上に繋がるため。	関連する研究開発評価、政策 評価・行政事業レビュー	

#### 2. 主要な経年データ

主な参考指標情	艮						②主要なインプット	情報(財務情	青報及び人員	に関する情	報)			
	基準値等	R3 年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度		R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
センター病院の 急搬送患者応需		79.9%	85.7%	%	%	%	%	予算額(千円)	34,297,25 9	33,433,99 6				
								決算額 (千円)	35,352,57 3	35,158,20 1				
センター病院の 度総合医療を要 る多臓器不全を った敗血症性シ ックにおり 日生存割合	ナ   ***	79.2%	85.7%	%	%	%	%	経常費用(千円)	34,878,09					
日生仔割台 国府台病院の精 科救急入院料病 及び精神科急性: 治療病棟におけ 重症身体合併症:	東 明 3	18.4%	18.2%	%	%	%	%	経常利益(千円)	3 704 664	2,553,044				
セカンドオピニン実施件数	† 160 件以上 /年	<del>229<u>226</u> 作</del>	<del>222<u>221</u> </del> 件	件	件	件	件	行政コスト (千 円) 行政サービス実施 コスト (千円) 従事人員数 令和 4 年 4 月 1 日 時点 (非常勤職員含 む)	34,990,83 9					
医療安全管理委会やリスクマネジャー会議の開ロ数	一 月 <b>雀</b>	月 1 回 内訳 センター病院 月 1 回 国府台病院 月 1 回	月 1 回 内訳 センター病院 月 1 回 国府台病院 月 1 回	内訳	回 内訳 センター病院 回 国府台病院 回	回 内訳 センター病院 回 国府台病院	回 内訳 センター病院 回 国府台病院							
医療安全監査委会の開催回数	2回/年	年2回	年2回	坦	田	田	田							

e-ラーニングによ	2回以上/	年4回	年4回	口	口	回	口					
る医療安全研修	年											
	1 '	内訳	内訳	内訳	内訳	内訳	内訳					
会・院内感染対策		センター病院	センター病院 年2		センター病院		センター病院					
研修会の開催回数		年2回	田	日	田	П	旦					
		国府台病院	国府台病院 年2回	国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院					
		年2回		日	日	日	П					
入院患者数	令和4年度計	センター病院	センター病院									
	画	548.4 人	539.6 人									
	センター病院	国府台病院	国府台病院									
	589.5人	280.6 人	268.5 人									
	国府台病院											
	297.3人											
外来患者数	令和4年度計											
77.木芯有数		カンカ 庁院	よい カー 庁院									
	画	センター病院										
	センター病院		1,521.1 人									
		国府台病院	国府台病院									
	人	771.5 人	748.2 人									
	国府台病院											
	768. 5											
	人											
初診患者数(入	令和4年度計								-			
院)	画	センター病院	センター病院									
_,,,,	センター病院		43.5 人									
	47.1人		国府台病院									
	国府台病院	12.6 人	11.6 人									
		12.0 人	11.0 人									
7月3公中 北米6 (月	13.0人											
初診患者数(外	令和 4 年度計	しい み 声吟	たい カー 声吹									
来)	画	センター病院										
	センター病院		139.2 人									
	136.5 人	国府台病院	国府台病院									
	国府台病院	37.7 人	<u>38.9</u> 39.0 人									
	36.1 人											
病床利用率	令和4年度計											
	画	センター病院	センター病院									
	センター病院	<u>84.8</u> 83.7%	83.7%									
	90.0%	国府台病院	国府台病院									
	国府台病院	83.8%	80.1%									
	88.7%											
平均在院日数	令和4年度計											
1 7 12 10 11 30	画	センター病院	センター病院									
	センター病院		12.4 日									
	12.7 日	国府台病院	国府台病院									
		国的 日初院 <u>11.8</u> 11.7 日	国的 日初玩 <u>12.9</u> 14.3 日									
	国府台病院	11.011./	<u>14.9</u> 14. <del>3</del> 日									
工, 45.74. */-	13.0 日											
手術件数	令和4年度計	المعطير يوري ر	المعرضات المحرار الم									
	画	センター病院	センター病院									
	センター病院	5,399 件	5,981 件									
	6,800件	国府台病院	国府台病院									
	国府台病院	<u>2,063</u> 2,977	<u>2,086</u> 1,877 件									
	1,743件	件										

紹介率	令和 4 年度計 画 センター病院 119.4% 国府台病院 72.5%	113.1100.5 国府台病院 <u>67.582.1</u> %	国府台病院					
逆紹介率	令和 4 年度計 画 センター病院 84.5% 国府台病院 87.5%	センター病院 <u>81.469.7</u> % 国府台病院 <u>85.6</u> 75.1%	国府台病院					

3.					係る自己評価及び主務大	臣による評価		
	中長期目標	中長期計画	年度計画	主な評価軸(評 価の視点)、指 標等	法人の業務実 主な業務実績等	績等・自己評価 自己評価	 	務大臣による評価
		<b>写</b> 山	紙に記	標等	上作术仍大顺寸		の活用を前提として、医ことは、我が国の医療レ (定量的指標) 本欄「(2)目標とま (定量的指標以外) ① 医療政策の一環としな医療、標準化に資 具体的には、 ・高度・専門的な! ・医療の提供 ・救急医療の提供 ・国際化に伴い必! ・客観的指標等を)	して、センターで実施すべき高度かつ専門的 なする医療の提供
							具体的には、 ・患者の自己決定へ ・患者等参加型医療 ・チーム医療の推進 ・入院時から地域ク ・医療安全管理体 ・病院運営の効果的	₹の推進 <u>£</u> r アを見通した医療の提供 引の充実

			(a) PE Debt a U.S.	
			(2) 目標と実績の比較	
			(定量的指標)	
			<ul><li>救急搬送患者応需率</li></ul>	(ヤンター病院)
			中長期計画	90%
			実績	85.7% (対中長期計画 95.2%)
			<ul><li>・高度総合医療を要す</li></ul>	「る多臓器不全を伴った敗血症性ショックにおけ <b>」</b>
			る 28 日生存割合 (	
			中長期計画	80%
			年度計画	80%
			実績	85.7% (対年度計画 107.1%)
			<ul><li>精神科教思人院科师</li></ul>	<b>病棟及び精神科急性期病棟における重症身体合併</b>
			症率(国府台病院)	
			中長期計画	15%
			年度計画	15%
			実績	18.2%(対年度計画 121.3%)
			・セカンドオピニオン	宇施件数
			中長期計画	年 160 件
			年度計画	年 160 件
			実績	222 <del>221</del> 件(対年度計画 138.8 <del>138.1</del> %)
			2 712 7	
			その他、「2. 主要な紅	経年データ」内、「主な参考指標情報」のとおり
			(a) y - N + + 1	
			(3) その他考慮すべき弱	<del>是素</del>
			(定量的指標以外の成果	(2)
			<ul><li>感染症への対応</li></ul>	•
			コロナ対応につい	いて、感染当初から引き続き令和4年度において
			も、患者の受入を行	fった。また、遺残を判断するフローを作成し運
			田士スニンに上り	より多くの患者の受入が可能となった。
				公について、世界的な流行初期から、欧州で承認
			されているテコビリ	リマットを輸入し、特定臨床研究の枠組みで日本
			の患者に投与できる	る体制を整えた。また、NCGM が事務局となり、
				ドットワークを形成し、これらの医療機関で多施
			設共同研究として、	患者が診られるよう医療提供体制を整備した。
			<b>松</b> 左 尼 走 《 坦 川	
			・救急医療の提供	
			センター病院では	は、救急搬送件数は都内でもトップクラスとなる
				応需率については、コロナ禍の影響により数値
				いったが、85.7%と東京都の平均 43.1%を大き
			く上回った。	
			国府台病院では	精神科救急入院料病棟及び精神科急性期治療病
				本合併症率は数値目標を超える 18.2%となって
			いる。精神科救急息	息者は重症身体合併症を伴うことが少なくない
			が、精神・身体を同	司時に診療できる施設は少なく、地域への貢献度
			は非常に大きい。	3 (1 2 3 2 3 2 3 3 )
			・高度・専門的な医療	まの提供
			腹膜偽粘液腫に対	けして腹膜切除+術中腹腔内温熱化学療法を行っ
			ている、わが国で植	驱めて限られた施設の一つである。また、COVID−
				を積極的に行った。陰圧室があり、手術室スタ
			ッフは感染対策を一	ト分に行い、帝王切開、腹部手術、骨折手術など
 	 	 	 	-

様式2—1—4-1(別紙) 国立国際医療研究センター 年度評価 項目別評価調調	様式 2 -	項目別評価調書 1-	- 3
---	--------	------------	-----

ウ 厚生労働省肝炎政策研究

班と連携し、全国肝疾患診

療連携拠点病院、全国肝疾

患専門医療機関を対象に、

ウイルス肝炎患者に対する

肝炎医療指標の達成状況調

査を行い、肝炎医療の均で

ん化のための課題の抽出と

同肝炎医療指標調査の中

で、2回目以降のDAA(直

接作用型抗ウイルス薬)治

療前のHCV遺伝子薬剤耐性

変異の測定状況調査を行

い、インターフェロンフリ

一治療の適正化を行う。

肝炎情報センターと連携

し、地域・職域における肝

炎患者の掘り起こしを推進

する。

改善策の検討を行う。

中長期目標 中長期計画 令和4年度計画 主な評価軸(評価の視 法人の業務実績等・自己評価 点)、指標等 主な業務実績等 自己評価

化に伴う種々の合併症に 対応する医療の提供に関 し指針を示すこと。新た な検査法や予防法を確立 し、新規感染者減少を目 指すこと。

外国人居住者や訪日外 国人の診療を含む、国際 的に開かれた病院機能を 充実させること。

肝炎対策基本法(平成 21年法律第97号) に基づ く肝炎対策の推進に関す る基本的な指針(平成28 年厚生労働省告示第278 号) に従い、肝炎予防、 肝炎医療の均てん化及び 研究の促進等、肝炎の克 服に向けた取組をより一 層進めること。

また、各病院の医療の 質や機能の向上を図る観 点から、センターとして 提供することを求められ ている医療のレベルに見 合った臨床評価指標を策 定し、医療の質の評価を 実施し、その結果を情報 発信すること。

ウイルス肝炎患者に対 し、肝臓学会治療ガイドラ インに沿って、患者の病態 (肝線維化等の発がんリス ク等)に応じた抗ウイルス 治療を提供する。C型肝炎患 者に対しては、HCV遺伝子薬 剤耐性変異の有無を測定 し、2回目以降の DAA (直 接作用型抗ウイルス薬)を 用いたインターフェロンフ リー治療の適正化を行う。 肝炎情報センターと連携 し、地域・職域における肝 炎患者の掘り起こしを推進 する。

術等の高度な手術を展開 し、高度な技術を有する医 師を育成することなどによ り、先端的医療の充実を図 る。ハイブリッド手術室を 開設する等して低侵襲・高 精度な手術を実践すること により、安全で質の高い医 療を提供する。また、体外 授精医療を推進し、分娩件 数の増加も図る。

内視鏡手術やロボット手 エ 内視鏡下手術やロボット 支援下手術 (ダビンチ) 等 の高度な手術の展開を図る とともに、高難度新規医療 技術を積極的に導入する。 肥満に対する手術以外に、 2020年度に保険収載された 新たな7種類の手術(膵頭 十二指腸切除、肺悪性腫瘍 区域切除、拡大胸腺摘出、 食道悪性腫瘍、膵体尾部切 除、腎盂尿管吻合術、仙骨 腟固定術など) に積極的に 取り組み、高度で低侵襲な 医療を国民に提供する。安 全な導入の段階から実施件 数の増加を目指し、2台目 のロボット運用につながる よう. 積極的なロボット手 術遂行を支援する。また、 婦人科腫瘍領域で今後重要 となる腹腔鏡下傍大動脈リ ンパ節郭清術の導入を目指

さらに、2022年度内にハイ

<評価の視点>

・ウイルス肝炎患者 に対する病態に応 じた抗ウイルス治 療の提供

<評価の視点>

・内視鏡手術やロボ ット手術等の先端 的医療の充実

厚生労働省肝炎政策研究班「肝炎総合政策の 拡充への新たなアプローチに関する研究(代表 : 考藤達哉) 」と連携し、全国肝疾患診療連携 拠点病院(令和4年度から72施設)を対象に、 肝炎医療指標の達成状況調査を行い、肝炎医療 の均てん化のための課題の抽出と改善策の検討 を行った。平成30年度から開始し、令和4年度 は5回目の調査(32指標、令和2年度、令和3年 度は29指標)を実施した。拠点病院においては 、新型コロナウイルス感染症の影響も比較的少 なく、高い指標値で均てん化された肝炎医療が 提供されていた。その中で、課題であった2回 目DAA治療前のHCV耐性変異検査の実施、電子カ ルテアラートシステムを用いたウイルス肝炎患 者の院内紹介実績に関しても目標値(指標値> 0.7) を達成していた。令和5年度は結果を基に 均てん化に向けて提言を行う。

コロナ感染蔓延による影響があったものの 、内視鏡下手術は1049件から1368件へと増加 し、ロボット支援下手術も令和3年度177件か ら241件へと増加した。ロボット支援下結腸 切除術が開始され、食道切除と膵臓切除が高 難度新規医療技術委員会を通過し、症例を待 っている状態である。1台目のロボットでは 全手術をサポートすることが困難となってお り、2台目のロボット運用に向けて準備中で ある。産科領域では、麻酔科、産科病棟、事 務方が協力することで、無痛分娩がスタート して、より安心で安全な医療を国民に提供し ている。令和4年度は26件の無痛分娩が施行 できた。さらにハイブリット手術室の構想に 関して、設計、運用が決定され、2023年度内 での開始を予定している。循環器内科、心臓 血管外科、脳 神経外科の高度な技術を必要 とする血管内治療を実施できる体制が構築さ れた。さらに外来手術センターの運用が決定 され、小手術を中心に手術室で行えるように 設計や工事が開始され、令和5年6月を目指し て開始を予定している。

腹膜偽粘液腫に対して腹膜切除術中腹腔内 温熱化学療法を行っている、わが国で極めて の受講率 (205 名中 205 名) であった。

全職員対象感染管理研修は年 2 回 e-ラーニン グで行った。期限までに受講しなかった職員には 補講を行い、受講率は 100%であった。また、中 徐採用者へ動画視聴による感染管理研修を 100% 実施した。

#### ○ (国府台)

- ・ 医療安全研修について 全職員対象の院内感染対策研修会をElearningで2回実施した。全職員を対象とした 2回の研修の受講率は100%となった
- ・院内感染対策研修について 全職員対象の院内感染対策研修会をElearningで2回実施した。全職員を対象とした 2回の研修の受講率は100%となった

(予算額・決算額の評価)

予算額 33,434 百万円に対し、決算額 35,158 百万 円となり、1,724 百万円の増となった。これは主に 計画外の固定資産を購入したことによるものであ

#### (定量的指標)

- ■センター病院の救急搬送患者応需率:90%以上 年度計画 90%以上
- 年度実績 85.7%(対年度計画 95.2%)
- ■高度総合医療を要する多臓器不全を伴った重症感 染症患者に対する集学的な集中治療の実施 年度計画 80%以上
- 年度実績 94%(対年度計画 117.5%)
- ■国府台地区における精神科救急入院病棟及び精神 科急性期治療病棟への入院患者の重症身体合併症

年度計画 15%以上

年度実績 18.2%(対年度計画 121.3%)

■セカンドオピニオン実施件数

年度計画 160 件以上

年度実績 222221-件(対年度計画 138.8138.1%)

■医療安全管理委員会やリスクマネージャー会議の

中長期目標	中長期計画	令和4年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等・自己評価			
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価		
	児童精神分野において は、自殺企図やひきこも り・家庭内暴力な専門のなどの を中心とした。 一般を引き続き提供し、 一般を引きを 一般を がある。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 とい	う。 ・	<評価の視点> ・児童精神分野における専門的な医療の提供及び評価・ 治療方法の開発など新たな児童精神 医療サービスモデルの構築等に取り	より現状変更に対する抵抗感を払拭する必要がある。 ・ 大腸がん補助化学療法では、リアルワールドデータの解析から、標準治療とピリミジン製剤単独投与に劣ることが示された。さらに、各患者に対する最適な化学療法を追求する。 ・ 電子カルテにがん薬物療法の副作用テンプの医師の入力を促すためには、研究への二次利用だけではなく何らかのインセンティブが必須と考えられる。 ・ 子どものメンタルヘルスレジストリに、とった。さらに年間500名程度の児童思春相標としている。現在、富山大学、東海大学と連携して、レジストリデータを審別した。さらに年間500名程度の児童とを積した。ならに年間500名程度の児童と学博として、のの現在、富山大学、東海大学と連携して、レジストリデータを利用した臨床研究への応用を検討している。現在、富山大学、東海大学に連携して、レジストリデータを利用した。 チ葉県子どものこころ拠点病院の人材育習の受け入れと児童精神科に関するオンラインの講義開催、関に児童精神科レジデント及び臨床研究医員と、「手葉県内の児童相談所、教育機関、原育として、「手葉県内の児童相談でのメンタルへルス令に、「手葉県内の児童相談でのメンタルへルス令に、「大変時の育成に努めている。また、野師の子がより、発達障害や摂食障害、子どものメンタルへルス全般に関する心理教育の動画を公開し、令和4年度を通じてYoutubeが13、846回、Twitter、Instagraml、Tictokのフォロワーがそれぞ	年度実績 センター病院: 139.2 人/日 (対計画 102%) 国府台病院: 38.939.0 人/日 (対計画 107.8108%)  ■病床利用率: 年度計画 センター病院: 90.0% 国府台病院: 88.7% (対計画 93%) 国府台病院: 80.1% (対計画 90.3%)  ■ 平均在院日数: 年度計画 センター病院: 12.7 日 国府台病院: 13.0 日 年度実績 センター病院: 12.4 日 (対計画 102.4%) 国府台病院: 12.914.3 日 (対計画 100.890%)  ■ 手術件数: 年度計画 センター病院: 6,800 件 国府台病院: 1,743 件 年度実績 センター病院: 5,981 件 (対計画 88.0%) 国府台病院: 2.0861,877件 (対計画 119.7107.7		

中長期目標	中長期計画	令和4年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等・自己評価			
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価		
		④ 入院時から地域ケアを見	<評価の視点>				
		通した医療の提供	○ 切れ目なく適切				
			な医療を提供でき				
		ア 患者に対して切れ目なく	るよう、地域の診	<ul><li>④ 入院時から地域ケアを見通した医療の提供</li></ul>			
	④ 入院時から地域ケアを	適切な医療を提供できるよ	療所や病院との役				
	見通した医療の提供	う、地域の診療所や病院と	割分担を図るとと				
	患者に対して、切れ目		もに、紹介患者の	ア 連携病院との連携強化を深めるため、近隣			
	なく適切な医療を提供で	、連携を強化し、患者に適	獲得や逆紹介を進	の医師会や医療機関を訪問するなどして、紹			
	きるよう、地域の診療所	した医療機関(かかりつけ		介率・逆紹介率の向上を図っている。			
	や病院との役割分担を図	医)への紹介を進める。	に向けた研修会、	○紹介率 センター病院 国府台病院			
	るとともに、連携室の機	E	協議会の開催等に	令和4年度 120.4% 66.4 <del>80.9</del>			
	能を強化し、紹介患者の		より、広範囲の地	%			
	獲得や患者に適した医療		域の医療機関等と	○逆紹介率 センター病院 国府台病院			
	機関(かかりつけ医)へ		の連携の強化を図	令和4年度 90. 366. 4%			
	の逆紹介を進める。		っているか。	86. 1 <del>72. 7</del> %			
	地域に開かれた市民公		J ( V . 5) // 6	00.172.7/0			
	開講座や連携医に向けた			【センター病院】			
	研修会・協議会の開催に			・ナショナルセンター唯一の総合病院として、			
	より、情報の共有を図り			地域の医療機関、医師会から信頼される病院			
	地域の保健医療機関との			を目指している。地元医師会との共同研修の			
	ネットワーク強化に取り			開催、連携医への院内研修の参加案内等を行			
	組むとともに、近隣地域			うなど密な連携を図るとともに、令和4年度			
	のみならず、より広範囲			は177施設の医療機関等の訪問を実施した地			
	の地域の医療機関等との			域連携予約枠は順調に稼働し、連携登録医や			
	連携の強化を図る。			人間ドックからの紹介患者に対して柔軟な対			
	足域の風口を囚る。			応を継続している。			
				【国府台病院】			
				・平成29年2月に地域医療支援病院に承認され			
				地域の中核病院として一層、地域医療への			
				貢献を目指している。			
				連携医制度の更なる周知を行い、令和4年度			
				末現在375名の先生に登録いただいている。			
				また、それらの先生方が参加する「国府台			
				医療連携フォーラム」を毎年開催している			
				が、令和4年度も令和3年度に引き続きコロ			
				ナウイルスの影響により会場参加とリモー			
				ト参加のハイブリッド形式で開催した。ま			
				た、地域の医療機関や医師会に対し医療機			
				器の整備状況の説明、パンフレット、ホー			
				ムページによる広報活動を積極的に実施す			
				るなど医療機関との連携を強化することに			
				より、地域連携開業医から直接画像検査の			
				依頼を受け付け、専門医による読影結果を			
				返却するという事業は、以下に示す様に一			
	Í			定の成果であった。			

中長期目標	中長期計画	令和4年度計画	主な評価軸(評価の視 点)、指標等	法人の業務実績等・自己評価		
				主な業務実績等	自己評価	
	1		T	A TARRESO DA OLD DE		
		正になされる体制を強化す		・ 令和4年10月19日~21日 日本医療機能評価 (************************************		
		る。		機構による病院機能評価(一般病院3と救急		
				医療・災害時の医療)を受審。		
				7		
				ク   ・ロボット支援手術は年々増加しており、1台		
				では収まりきらない程度まで増加した。現在1		
				日2件のロボット支援手術を行いつつ、さら		
		  コ 2021年度に新設した未承		に新規の高難度手術を予定している。高難度		
		認新規医薬品等評価部が主		新規医療技術評価部を強化し、検討が必要な		
		体となり、未承認新規医薬		術式については高難度新規医療技術評価委員		
		品等の使用が適正になされ		会での検討も行ない、より高度の医療を安全		
		る体制を強化する。		に提供できように強化され、運用している。		
		0 11 mg c 32/12 / 00				
				・ 未承認新規医薬品等評価部の諮問委員会と		
				して未承認新規医薬品等評価委員会を定期的		
				に開催した。必要に応じてメール審議を併用		
				し臨時案件、緊急案件に対応した。		
				実績令和4年 11回開催		
				審査案件:13件、臨時案件:12件、迅速案件		
		⑥ 病院運営の効果的・効率	<定量的視点>	: 1件		
		的実施	■ 入院患者数:年	また、未承新規医薬品等評価委員会の審議		
			度計画において数	を円滑に進めるため、手順書、審査基準、リ		
		ア 効果的かつ効率的に病院	値目標を定める	スク分類を整備した。		
		運営を行うため、2022年度	■ 外来患者数:年			
		における年間の入院患者数	度計画において数			
		等の目標を以下のとおりと		⑥ 病院運営の効果的・効率的実施		
		する。	■ 初診患者数(入			
		(センター病院)	院): 年度計画に			
	⑥ 病院運営の効果的・効	1日平均入院患者数	おいて数値目標を	7		
	率的実施.	589. 5人	定める	【センター病院】		
	44 EE 44. ) _ 44 44.1.1 _ 44 EE 500	初診患者数(入院)	■ 初診患者数(外	センター病院においては、地域医療連携の		
	効果的かつ効率的に病院運	47.1人	来):年度計画に	推進や病床管理基準の作成・運用等による患		
	営を行うため、病院全体及	年間平均病床利用率	おいて数値目標を	者確保や高難易度手術件数増を図った結果、		
	び診療科毎における入院患	90.0%	定める	以下のとおりとなった。		
	者数、外来患者数、初診患	平均在院日数(一般)	■ 病床利用率:年 無計画において数	1日平均入院患者数 539.6人		
	者数(入院、外来)、病床	12.7日	度計画において数	1日平均外来患者数 1521.1人 25.4 42.5 4		
	利用率、平均在院日数、手	年間手術件数	値目標を定める	初診患者数(入院) 43.5人 初診患者数(外来) 139.2人		
	術件数、紹介率、逆紹介率 について、年度計画におい	6,800件 1日平均外来患者数	<ul><li>■ 平均在院日数:</li><li>年度計画において</li></ul>	初診患者数(外来) 139.2人 病床利用率 83.7%		
	て数値目標を定めて取り組	1,512.8人	#度計画におい 数値目標を定める	内水利用率 83.7%   平均在院日数(一般) 12.4日		
	し む。	初診患者数(外来)		手術件数 5,981件		
	」 む。 また、入院実患者数の実績	初診思有数(外米) 136.5人	<ul><li>■ 子州</li></ul>	紹介率 120.4%		
	について、感染症その他の	紹介率 119.4%	目標を定める	道紹介率 90.3 <del>66.4</del> %		
	疾患にかかる割合を分析し	逆紹介率 84.5%	■ 紹介率:年度計	~_лнл г <u>50. б</u> 00. г/б		

9 長期目標	中長期計画	令和4年度計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実績等・自己評価			
			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価		
				•			
	、より効果的・効率的な病棟運営に活用する。DPCを活用した経営対策を進め、在院日数の短縮、新入院患者数の短を図るとともに医療材料等の経費にに受かり、経営は形では上を経過になる当場ででは、経営は形では、経過では、経過では、経過では、経過では、大量では、大量では、大量では、大量では、大量では、大量では、大量では、大量	(国府台病院) 1日平均入院患者数 297.3人 初診患者数 (入院) 13.0人 年間平均病床利用率 88.7% 平均在院日数 (一般) 13.0日 年間手術件数 1,743件 1日平均外来患者数 768.5人 初診患者数 (外来) 36.1人 紹介率 87.5%  イ DPCを活用した経の短をでを進める。  ウ り療産ととでは、新入とも。 ウ り療療達ペインとのに、標のなど終すがに設ととマイン る。		【国府台病院】 国府台病院においては、一層の診療機能・体制の充実強化を図るとともに、引き続き地域医療連携の推進等による患者確保に努めた結果、以下のとおりとなった。 1日平均外殊患者数 748.2人 1日平均外殊患者数 748.2人 初診患者数 (外来) 38.939.0人 病床利用率 80.1% 平均在院日数 (一般) 12.944.3日 手術件数 66.480.9% 超介率 66.172.7%  4 センター病院においては「保険・DPCコーディング委員会」を年11回開催し、各種統計の分析を行っている。これらの情報を通じて周知し、効率的かつ効果的な病院経営に努めている。 ウ 各種の経営指標や月次決算の状況については、理事会や運営戦略会議、センターには、センター病院)や管理診療会議(国府台病院)で報告するともに、職員専用本庭、令和3年度に引き続き、職員のは監禁を掲載している。また、令和3年度に引き続き、職員のは監禁の向上を図っている。。			
		診療科ごとの年度目標の設 定と達成度により評価など 経営マインドの向上を図		ントラネットや病院運営企画会議等を通じて周知し、効率的かつ効果的な病院経営に努めている。  ウ 各種の経営指標や月次決算の状況については、理事会や運営戦略会議、センター管理会議(センター病院)や管理診療会議(国府台病院)で報告するとともに、職員専用ホームページに掲載している。また、令和3年度に引き続き、職員向け広報紙に経営状況を掲載するなど、職員の経営意識の向上を図ってい			

#### 様式2-1-4-2 国立研究開発法人 年度評価 項目別評定調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)様式

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報						
2 - 1	業務運営の効率化に関する事項						
当該項目の重要度、難		関連する政策評価・行政事業					
易度		レビュー					

. 主要な経年データ   評価対象となる指標	達成目標	基準値等	R3 年度	R4年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8年度	(参考情報)	
11	Z A A I I	(前中期目標期間最終年度	110 1 12	101   12	100   100	100 1 /2	10.1%	100 1 /2	当該年度まで	の思積値等
		值等)							必要な情報	\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\
中長期目標期間を累計した損	100%以上		106.4%	<u>104.6</u> <del>104.7</del> %	%	%	%	%	前中期目標期間最終	冬年度
益計算における経常収支率									(令和2年度)	
	(令和4年度計画では								経常収支率 1	107.5%
	100.8%以上)									
後発医薬品:中長期目標期間	85%以上		センター病院	センター病院	センター病院	センター病院	センター病院	センター病院	前中期目標期間最終	冬年度
を通じて数量シェア			91.0%	92.6%	%	%	%	%	(令和2年度)	
	(令和4年度計画で		国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院	国府台病院	センター病院	90.6%
	は 90%以上)		94.1%	92.7%	%	%	%	%	国府台病院	94.6%
一般管理費(人件費、公租公	2020 年度に比し、	令和2年度	158.0%増	166.8%増	%増減	%増減	%増減	%増減		
課及び特殊要因経費を除く。)	中長期目標期間の最	一般管理費(人件								
	終年度において、	費、公租公課を除	306,811 千円	323,796 千円	千円	千円	千円	千円		
	5%以上の削減	<)		·						
		194,176 千円								
医業未収金比率	前中長期目標期間の	平成 28 年度								
	実績の最も比率が低	比率 0.072%	0.161%	0.199%	%	%	%	%		
	い年度に比して、低									
	減									

0	な事業に広の業效	っぱっ口畑 当宝	光水水体 左南部	年に ダッカコ 証 佐丑・	x - 数 1. E 1 - L 7 恶 / E		
3.					ド主務大臣による評価 <u></u>		
	中長期目標	中長期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務詞	実績・自己評価	主務大臣による評価
					業務実績	自己評価	
							評定 B
	別紙に記載						<評定に至った理由> 自己評価書の「B」との評価結果が妥当であると確認できた。
							<今後の課題> 特になし
							<その他事項> 特になし

4. その他参考情報			

<u>式 2 — 1 — 4</u> 中長期目標	中長期計画	□立国際医療研究 令和 4 年度計画	主な評価指標	法人の業務室	
T 及 例 口 标	<b>一下以</b> 初 日 国	17 和 子 午 及 们 画	上で計画出版	主な業務実績等	自己評価
				± 0.50 (1)50 (4)	
<b>ンた損益計算において、</b>			営を図っている	の法令遵守意識の向上に引き続き取り組んでい	財務管理部の4部体制による、権限と責任の明確
常収支が100%以上と			かっ	<b>ప</b> .	による相互牽制と効率的運営を図りつつ、国府で
るよう経営改善に取り					区の事務部も含め事務部門全体として大局的に。
J.,			<定量的指標>		えることで効果的・効率的な連携、調整等事務権
	(2)効率化による収支改善	(2)効率化による収支改善	, , ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	(2)効率化による収支改善	強化を図り、効率的な業務運営に引き続き取り組
	センター全体で収入の増	2022年度の予定損益計算に	間を累計した損	1. 収支改善の推進	でいる。
	加やコスト削減に努め、中	おいて、経常収支率が	益計算における	センターの運営方針の基で、研究所、臨床	
	長期目標期間を累計した損	100.8%以上となるよう内	経常収支率:10	研究センター、センター病院、国府台病院、	
	益計算において、経常収支	部統制を推進し経営改善に	0%以上	国際医療協力局及び国立看護大学校の主要部	○ 電子化の推進・電子化の推進による業務の効率
	率を100%以上となるよう	取り組む。そのために、		門が実施する業務の特性等を踏まえつつ、よ	と情報セキュリティの強化など
	経営改善に取り組む。	2018年度末に策定した5カ		り効率的・効果的な機能を発揮できる運営体	Control to the second s
		年の経営再建計画の4年目		制となるよう、以下の取り組みを継続して行	<ul> <li>医療情報基盤センター(CMii)を PMO の機能</li> </ul>
		として、引き続き、各組織		った。	う部門として所掌の整理を行った。また、CMiil
		別の収支を明確化したうえ		1) 归光明区の子が中央	いて、電子カルテの更新に向けた全般的な支援: 施、令和5年度中の円滑な稼働に向けて引き続:
		で、医療需要を踏まえた病 床再編や病床利用率向上の		1)収益関係の主な内容	
		木丹編や州木利用学門上の   ための措置、地域連携の推		・《新たに取得した主な施設基準等》 ①センター病院	切な管理を行う。
		進等を実行していく。ま		【新たな施設基準の取得】	<ul><li>医療DXへの政府方針を踏まえた次期病院情報</li></ul>
		世等を実行していて。ま た、以下の取り組みについ		・ 充実段階評価加算 (R4.4)	ステムの在り方の検討を進め、センター病院及
		ても継続的に実施してい		・早期離床・リハビリテーション加算(R4.4)	府台病院の電子カルテシステム間の情報共有方:
				・早期栄養管理加算(R4.4)	含めて、現行システムに対する改善点に関する
		<b>\</b> 0		・報告書管理体制加算(R4.5)	内の意見を集約し、次期病院情報システムの調
				・放射線治療病室管理加算(R4.12)	様を策定した。
				・感染対策向上加1(R4.4)	THE TRACE OF CO.
				・ 重症患者初期支援充実加算(R4.4)	<ul><li>電子化により蓄積された病院情報システムの</li></ul>
				・医師事務体制補助加算2 20:1 (R4.4)	タ利用を支援することで、研究利用に加えて、[
				• 後発医薬品使用体制加算1(R4.4)	安全・医療品質管理、運営戦略会議、病院運営
				・看護職員処遇改善評価料69(R4.10)	会議、センター管理会議(センター病院)、管理
				・病棟薬剤業務実施加算1·2(R4.10)	療会議(国府台病院)等における病院運営及び
				・BRCA 1/2遺伝子検査(R4.4)	分析に関する継続的なデータ利活用を推進した。
				・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体(R4.4)	
				・外来化学療法加算1(R4.4)	
				・摂食嚥下機能回復体制加算(R4.10)	(定量的指標)
				・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交	■経常収支率
				換療法(R4.4)	中長期目標 100%以上(財政の健全化)
				・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白	年度計画 100.8%以上(財政の健全化)
				を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレス	年度実績 <u>104.6104.7</u> %(対年度計画 <u>103.8</u> 103.9
				療法(R4.7)	
				・角結膜悪性腫瘍切除手術(R4.5)	
				<ul><li>・緑内障手術(流出路再建術及び水晶体再建術併</li></ul>	■後発医薬品数量シェア
				用眼内ドレーン挿入術)(R4.5)	中長期目標 85%以上
				・緑内障手術(濾過細胞再建術)(R4.5)	年度計画 90%以上
				・膀胱頸部形成術(R4.4)	年度実績 センター病院 92.6%(対年度計画 102.9
				・腹腔鏡下胃切除術(R4.9)	国府台病院 92.7%(対年度計画 103%)
				・腹腔鏡下噴門側胃切除術(R4.9)	
				・腹腔鏡下胃全摘術(R4.9)	■一般管理費の削減(人件費、公租公課を除く)